

参加者印象記

グループ I A 大野 心

ワークショップ全体を通じて、様々な大学の様々な進路の学生の意見を聞くことができ、非常に有意義な時間であった。薬学部という同じバックグラウンドを持つ学生同士だから分かり合えることは非常に多く、患者さんの役に立ちたいという思いは特に全員が強く持っていた部分であり、今後もこの思いを強く持ち続けたいと感じた。また、同じバックグラウンドでも進路や大学が異なると、考えが異なる部分も多く、非常に刺激的であった。今後も自分の意見ばかりにこだわることなく、このような機会を設け、視野を広げていくことが必要であると感じた。薬学教育に関しては、あまり大学で学べなかったこととして、教育とチーム医療が多く挙げられた。教育に関しては非常に重要であるが、あまり大学で学んだ覚えがないという意見が多かった。チーム医療に関しては授業では学んだが実際に医学部や看護学部と合同の授業があった方がより実践的であると感じた。今後の時代の変化に対応するためにも、教育やチーム医療に関してもっと学びたい。

グループ I A 岡元 ちよみ

私は今回のワークショップを通じて、今までの薬学教育について理解を深め、これからの薬学教育並びに薬剤師がどうあるべきか考えることが出来ました。

第一部の「私の夢」についてのセッションにおいて、将来像がそれぞれに異なっていたことが興味深かったです。自らの独創性を取り入れながら将来を見据える他の薬学生の話聞くことができ、大変有意義でした。

第二部の6年間の薬学教育の中ではできなかったことに関するセッションでは、大学によらず足りなかったと感じる点はある程度共通であり、これからの薬学教育の課題について理解を深めることが出来ました。

第三部では、変化する社会情勢の中で薬剤師として自分がどのようになりたいのかを話し合うことで、他の薬学生がどのような薬剤師になり活躍をしていきたいのかを聞き、自らのモチベーションを高めることが出来ました。

最後のセッションでの先生方からの言葉のなかで、私が特に印象に残ったのが「能動的に動ける薬剤師たれ」という言葉です。私は能動的に動くためには自信が必要であり、その自信は十分な根拠のある知識からくるものであると考えます。したがって私は生涯研鑽を怠らず、常に知識を更新し続け、能動的に動ける薬剤師でありたいと思いました。

グループ I A 小山 佳祐

全国各地の地域特性に関連した考えを聞ける機会は貴重であり、非常にありがたいものであった。自分の県内と県外の差異を認識できるのは視野を広げる意味で重要であり、良い刺激を得ることができた。我が県の特性上、地域に根差した薬剤師を育てたい傾向があり、病院に勤めるか、薬局に勤めるかといった狭い視野で将来を考える学生が多い。しかし、ここで出会った学生の視野は広く、行政、CRC、講師といった幅広い将来を見据え、確固とした意志を感じた。話を聞くたびに思うことがあり、自分の考え方に新しい風が吹くのを感じた。

このセミナーを通じて一番心に残ったのは薬学生が培いたい能力は「教育能力」であったことである。これには共感する点が多かった。患者教育、後輩への教育は総じて伝える能力を求められる。この能力は現場で補う傾向が強く、個人差の大きいことではあるが、それを理由にして捨てていい能力ではない。難しい情報を薬剤師を介することで伝わりやすくすることの重要性と必要性を感じた。

グループ I A 佐々木 晶菜

各大学一名の参加ということで、他の学生と打ち解けられるのか不安に感じながらの参加でしたが、今回のワークショップへの参加は、私の人生にとって、かけがえのない大変、貴重な経験となりました。もし、参加を悩まれている方がいらっしゃるのであれば、何の心配もしなくていいので、是非、参加してほしいと思います。

初めに驚いたことは、他大学の薬学生同士での SGD が、「時間が足りない」「もっと話し込みたい」と思えるほど盛り上がったことです。様々なセッションを通し、共通する部分もあれば、今までに考えたこともない視点や考えを共有することができ、薬学生として以前に、人として学び成長することができたと感じています。また、臨床現場の先輩方のお話を伺うことで、将来の薬剤師像について、改めて考える良い機会となり、自身の薬剤師としての夢や希望を再認識、再構築することができました。

最後となりますが、ワークショップ開催にご尽力いただいた関係者の皆様、並び、I A グループをはじめ、2日間、多くの刺激を与えてくれた薬学生の皆さんに心よりお礼申し上げます。

グループ I A 柴野 雅仁

全国学生ワークショップ全体では、さまざまな人の意見や価値観から自分の視野を広げることができ、充実した2日間を過ごすことができました。

普段接する機会のない他大学の学生との意見交換は刺激的で、3つのテーマにおける活発な議論を通して、色々な着眼点や新しい発見などの気づきを経験することができました。また、参加学生は人の意見を上手に取り入れて、それに自分の考えを加えて情報を発信する能力が高かったです。そういった積極的な一面は見習うべき部分であり、私自身さらなる努力が必要だと感じました。

将来の進路や目指すものは違いますが、テーブルを囲んで仲間達と時間と情報を共有できたことは私の財産だと思っています。今回の経験を単なる思い出として残すのではなく、将来薬剤師になった時にも活かしていきたいと思っています。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えて下さった日本薬学会の関係者の皆様ならびに、タスクフォースの先生方、先輩方には心より御礼申し上げます。また活発な議論を共にした多くの仲間に深謝申し上げます。

グループ I A 武田 怜

今回、全国の薬学部生が一堂に会し交流するという貴重な経験をさせていただいたが、他大学の薬学部生がどのようなことを考えているのか知ることができたのが何よりの体験だったと感じた。同じ大学内でも様々な人間がいて、そうした人たちと交流を深める中で日々新たな発見をすることはあるが、地域も学歴も異なる他大学の人間は同大学生に比べて考え方や価値観が似通っておらず、良い刺激がもたらされたのである。具体的には、私は趣味のプログラミングやゲーム制作を薬剤師の業務に生かすことができないか考える中で医療情報技師の認定資格を見つけ、将来的には勤務先での医療システム構築に携わることを計画していたが、今回のワークショップでよりゲームと医療を直接的にリンクさせ、精神疾患や認知症患者向けのゲームや、啓もう活動向けのゲームを作ることを提案され、自分の見識がまだまだ狭いものであることを痛感させられた。

また、大学内では得難い「全国の友人」を持つことができたという点でも、ワークショップは良い経験になったと思う。今回得られた繋がりは、今後薬剤師として社会に出たから

も大切にしていきたい。

グループ I A 戸田 真奈美

今回、ワークショップに参加して、病院や調剤薬局、ドラッグストア以外にも製薬会社や研究、教育など様々な進路に進む学生や、様々な分野でご活躍されている先生方と話す機会をいただき、あらゆる視点からの考え方を共有することが出来た。

学生同士での意見交換では、それぞれの環境の違いや個々の大学の教育方針、個性があり、様々な考えや医療においての見方を知ることが出来て、とても刺激になった。また、実際に働かれている先生方のお話を聞けたことで、今後、薬剤師としてどうあるべきなのか再度考えることが出来た。

患者さんに寄り添える立派な薬剤師になるためには、「豊富な知識」に加え、患者さん一人ひとりに寄り添う「人間力」と分野を超えた「情報共有」が不可欠であると感じた。

いずれは、患者さんの健康維持から急性期、慢性期までの「豊富な知識」をもち、学校教育だけでなく、社会に出てからもあらゆる専門分野の薬剤師の先生方と「情報共有」し、患者さんが頼りたいと思える薬剤師になりたいと強く感じた。

また、今回、大学内では学べない貴重な経験が出来たと感じたので、これからも大学を超えて、薬学生や医療従事者を目指す学生、先生方と交流できる機会、患者さんの声を聞く機会が出来れば、患者さんにとってより良い医療につながると思う。

グループ I A 中山 拓

今回の WS を通してまず感じたことは、自分の視野の狭さでした。思っていたより何倍も薬剤師の活躍できる場所は多く、また、それは私たちのすぐ近くにあるということに気づかされました。もう一つ感じたことは参加していた学生のほとんどが将来に具体的な目標を持っていたということです。さらに、その目標も多種多様で、社会貢献に対してのアプローチの仕方は数え切れないほどあることを実感しました。

World Café や様々な SGD では、一人一人が自分の意見を持ち、それを言葉として表現していたことでいつも活発な討論を行うことが出来ました。討論の中で一番感動したことは、誰かの意見に対して頭から否定されることが一度もなかったことです。どの討論を振り返ってもそこでは否定ではなく意見交換がされ、多くの意見の中から最善が選択されていく様は参加していてとても心地よかったです。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった開催関係者の方々、参加された各大学の薬学部の方々に深く御礼申し上げます。

グループ I B 井口 陽士

全国学生ワークショップでの2日間を通してもっとも驚いたことは、薬学部という1学部の中においても、大学やバックボーンが違うだけで相当な多様性があること、そして、多様な価値観を持っているにも関わらず、志を同じくする者が非常に多いということです。実際に、SGD では様々な切り口からの意見が出て、これが果たしてまとまるのだろうかと思ったこともありましたが、しかしながら実は全く違うものに見える意見もよくよく考えてみると同じ方向を向いており、そこから加速度的にプロダクトができあがっていくという経験はとても新鮮なものでした。

参加の打診を受けた際に、内心「東京か...遠いな、面倒くさいな...」と思っていた自分

を過去に戻って戒めたいほどに大変有益かつ楽しい時間を過ごさせていただきました。この度のワークショップでの経験から、何のために物事をなすのかという事を必ず念頭に置くことの重要性を学び、ALL 薬剤師として「自ら発信できる薬剤師」となるという目標を得ることができました。このような素晴らしい機会を与えてくださった関係者の皆様、そしてとても個性的で刺激的な仲間に関心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

グループ I B 伊知地 由依

今回、第8回全国学生ワークショップに参加させていただき、短い期間ではありましたが非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。私の大学は、薬局や病院に就職をする学生がほとんどであり、ワークショップでは大学院への進学や行政関係、また次世代の薬剤師育成への貢献等、大学内では得られない多様な視点からの考えを聴くことができました。私は、人前で発表することや積極的に意見を述べることに苦手意識があり、SGD やその後の合同討論での皆様の意見を積極的に伝える姿勢、発表での様子はとてもかっこよく感じました。今回、発表する機会を頂き、グループの方々の支えもあって乗り越えることができました。私も苦手だからと言わず、今後は積極的に取り組んでいきたいと思いました。ワークショップを終えて、向上心が高く、頼りになる同期が周りにたくさんいること、自身の考え方が参加する以前よりも確実に広がっていることを実感しています。更なる成長を、という気持ちで今後も励んでいきたいと思っています。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった多くの関係者の皆様に感謝申し上げます。

グループ I B 岡田 麻依

日本薬学会第8回全国学生ワークショップに参加させていただき、本当に貴重な体験をすることができました。私にとって他大学の学生との交流の機会は初めてでしたが、2日間という短い中で充実した時間を過ごすことができたと思います。

今回のテーマは、「6年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと～将来への想いを共有しよう～」であり、6年間の大学生活を振り返ったり、将来について考えたりしました。特に将来についてのSGDでは、来年から薬剤師になるからこそ、より具体的で現実的な意見を互いに持って、討論することができたと思います。様々な考えを聞くことで、私の考えがまだまだ狭いことを実感し、とても刺激を受けました。今回のワークショップで学んだことを今後活かして、薬剤師として活躍できるように頑張りたいです。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の方々、ならびに2日間共に過ごした同期の仲間に深く感謝申し上げます。

グループ I B 金子 明正

私は、このワークショップを非常に楽しく過ごすことができました。SGDを通して議論を行ったのですが、とても活発に意見が出ていました。それは普段のSGDとは異なっており、また、自分の中では考えてもいない意見も出てきて刺激的な話し合いができました。例えば、「在学中に学ぶことができなかったこと」をテーマにした際には、「芸術」といった意見が出ました。これは私の考えには全くないものでした。しかし、理系の学生におい

でも芸術の感性を磨くことの大切さは聞いたことがありました。このことを考慮すると、私には芸術の感性が欠けており、この感性を磨いたとしたら、自身を成長させられるのではないかと考えました。このように自分にはない考えを持った人との交流はとても考えさせられ、またとても楽しいものでした。

そしてもう一つ強烈に印象に残ったことは、PMDA の紀平さんの話でした。「薬局は癌である。薬局が医療費を増大させている。」とのことでした。これを聞いたとき、とても腹が立ちました。しかし、薬剤師に求められる仕事に変化していく中で、このように思われる現状があることを認識するとともに、薬剤師に求められることが大きく変化していることを再認識しました。また、このような強い発言で、発破をかけることが紀平さんの発言の目的ではないのかとも思い、強くに印象に残りました。

このワークショップは、上記のようにとても考えさせられることが多く、大変充実したものでした。

グループ I B 熊野 諒太

この度、日本薬学会第8回全国学生ワークショップに参加させて頂き、普段交流することのできない全国各地の薬学生とお話し、交流を深められたことはとても貴重な体験でした。参加した各大学の代表者は、志が高い学生ばかりでした。異なる環境で大学生活を送ってきたこともあってか、自分にはない視点からの意見もあり、視野を広げる良いきっかけになりました。また、同じ薬学生として高い目標を持ち活動していることなど尊敬できる部分が多く今後の成長に繋げていきたいと思いました。

SGD では、初対面のメンバーと一つのプロダクトを作成することの難しさもありましたが、異なる意見が出たからこそ、大学では作ることのできない良いプロダクトができたと思います。しかし、今回全国の薬学生が集まっているのにⅠ、Ⅱ、Ⅲグループを固定し他のグループとプロダクトを作成する機会が無かったことは残念な点だと感じました。

一日半という短い時間でしたが、全体的にとっても有意義な時間を過ごすことができました。また、ワークショップを運営してくださった方々、そして OB/OG の先輩方に感謝いたします。

グループ I B 那須 隆斗

様々な環境で学んでいる他大学の学生と交流することで将来への考え方の幅を広げることを目的に参加させていただきました。World café で「大学生活で印象に残ったこと」では大学内の事だけでなく、故郷と下宿先の違いや趣味のことを話している人もおり、自分は頭の固い考え方をしていることに気づかされました。それからのディスカッションでは、柔軟な考えを心がけて話し合うことができました。「私の夢」をテーマに話したとき、何よりも嬉しかったことが笑われることなく自分の将来の目標について話せたことです。また、多くの人の将来の夢を聞くことが良い刺激になり、自分の将来について改めてしっかり考える機会にもなりました。

3回行った SGD で最も印象に残ったことは、「10年後の薬剤師の姿について考えてみよう」をテーマに話し合ったとき、それぞれ職業や場所は異なっても広い視野で見ると目的が同じようなことに収束したことです。一見異なる意見でも見方を変えたと繋がることがあると学ぶことができました。

2日間のディスカッションや教育講演で学んだことを糧に目標を達成したいです。

グループ I B 和知 円

私は WS で薬学部、そして薬学界の課題について学ぶことができました。薬剤師は薬を見て人を見ず、経営に重きを置く傾向にあるという話は、まさに私が実習で感じ、将来このままで良いのか悩んだことでした。医学、看護学等、医療系を目指す学生の志に大きな違いがあるとは思いません。他学生からも薬学部はキャンパスが離れたところにある、もっと他学部と交流したいという意見がありました。様々な分野との繋がりが課題だと感じました。

医療に限りませんが専門性が高く細分化される世の中です。しかし、患者さんや社会の抱える課題は様々な分野が繋がっており、物事を解決するには柔軟な思考が必要なのだと感じました。

私は薬剤師となったとき、社会の渦に飲まれたまま生きていくのかもしれないという不安を感じていました。しかし、今回の WS に参加し、世の中のシステムは行政のみならず現場の薬剤師や学生が声を上げてつくり上げていくものであり、私自身が不可能という壁を造って不安に想っていたことに気付きました。

私は人を見ることができ、社会に貢献する人になりたいです。その情熱を絶やしません。WS に参加させて頂けたこと、このような機会を創って頂いた関係者と参加された皆様に感謝申し上げます。

グループ I B 和山 晴香

第8回全国学生ワークショップに参加し、薬学生として過ごしてきたこれまでと、薬剤師としてのこれからを話し合うことが出来て大変刺激を受けました。自分が今まで受けた薬学教育に感じていたことが他大学の学生と同じ気持ちであったり、また見ている世界が狭いことにも気付かされました。

私が特にワークショップで心に残っている事は「周りには同じくらい熱い気持ちを持っている仲間がいることを忘れないでほしい」と言うお言葉です。文部科学省や PMDA や薬学会の先生方、OB・OG の皆様はこれからの薬剤師の未来について熱い気持ちを持っていることが伝わりました。6年間大学で学んできた中でどうしても自分が 100 の熱量を持って研究や勉学に取り組んでいたとしたら、周りの学生が 100 の熱量でそれらに取り組んでいるかと言われると YES とは言えないと感じ、どこか疎外感を感じていました。でも、先生たちのお話を聞いて、また他大学の学生とこれまでとこれからについて真剣に語りあった事で、この熱量を燐らずより高めていきたいと言う気持ちを再確認しました。このワークショップで、覚悟と責任を持ち、これからの薬剤師の環境を作り上げていける仲間に出会えたと思いました。

グループ I C 川上 宏希

今回のワークショップに参加させていただき、全国の学生と同じ目線で議論できたことは非常に有意義だったと感じております。普段の大学生活の中だけでは、「薬学教育」や「薬剤師に必要なこと」などについて学生同士で話し合う機会はあまりありませんでした。そのため、他大学の学生と「これからの ALL 薬剤師に求められること」について意見を交換することで、6年間で学んだことの意義や社会に出るまでに学ぶべきことを再認識することができ、今後に向けてより意識が高まりました。また、社会のニーズに応えるために薬剤師としてやっていかなければならないことについて考えるよい機会となりました。ワークショップでは、第1部～第3部でディスカッションするだけでなく、学生同士やタスク

ワークの先生方との交流することも非常に楽しく、いろいろな話をする事が出来ました。このワークショップに参加した仲間たちと、これから様々な進路に進む「ALL 薬剤師」として、お互いに刺激しあい、高めあっていきたいと思います。

最後になりましたが、このような機会を設けてくださった委員会の先生方と2日間共に過ごした薬学生の皆様に心より感謝致します。

グループ I C 中井 絵梨

今回全国学生ワークショップに参加してとても楽しめたというのが印象に残っています。

元々私は大人数の前で話すのが苦手でした。そのため初めの1回目の world cafe では中々話せませんでした。三回やると段々とお互い打ち解け合うことができたのでもっと話したい気持ちになりました。意見を出す時はしっかり自分の中で理解して相手に伝わるようにすることが難しく感じました。もっとスムーズに言えるようになるためにはもっと人と交流する機会があってこそできることだと感じたのでもっと他大学との交流の機会を増やして欲しいです。また、メンバーとは就職先がそれぞれ異なっていたのでそれに沿った意見が多く出てとても有意義な討議となりました。

印象に残ってる言葉として **Better Late than Never** があります。これから国試があるのでそれに向けてくじけずに前向きにやり遂げることが大切であると学びました。

他大学の方と交流する機会を頂けて嬉しかったです。

グループ I C 中澤 太陽

第8回全国薬学生ワークショップへの参加を通して、全国の薬学生と意見交換をすることができ、刺激的な2日間となりました。参加メンバーの進路は様々で10年後の将来の目標もそのための手段も各々で異なるものでしたが、根底にあるものは薬を通して患者を健康にしたいというものでした。患者の治療に携わることができるのは臨床の薬剤師だけではなく、広い目でみれば、薬学教育に携わる薬剤師や企業で研究に携わる薬剤師など、すべての薬剤師が患者の健康に寄与しているはずです。そのため、臨床の薬剤師はもとより、大学や企業などの薬剤師も理想の薬剤師像を心にもち、その目標を達成するための方略を常に考え、努力を続けていかなければならないと感じました。今回のワークショップの経験はこれから薬剤師としての活動をするうえで、大きな財産になると思います。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった皆様に御礼申し上げます。そして、ともに議論した仲間に深く感謝いたします。

グループ I C 中村 綾菜

日本薬学会第8回全国学生ワークショップに参加して最も印象に残ったのは、セッションⅡの「6年間の薬学教育の中ではできなかったこと」である。このセッションでは6年間の薬学教育の中では習得できなかった資質に関して、どのような授業があれば習得度が上がったと思うか、その改善プログラムを考えた。私たちの班は、次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する教育能力を十分に習得出来なかったという点に着目した。振り返ると、この6年間で後輩学年と交流して何かを教えることはほとんどなく、授業で教わったことを自分たちが吸収するだけで手いっぱいであったと思う。6年間の薬学教育やそのシステムに関して第三者的視点で考えると、新たな発見が多々有り、その気付きこそを後

輩に伝えていきたいと感じた。

また、2日間のワークショップの最後の「10年後の薬剤師について」で聞いた、“Better late than never”という言葉は特に胸に刺さった。何もしないよりまず挑戦し、生涯に渡って自己研鑽を続けたいと思ったと同時に、このワークショップに参加できたことを誇りに、将来の薬学領域に大きく貢献できる人材になりたいと強く思った。

グループ I C 羽鳥 真由

この度、日本薬学会第8回全国学生ワークショップに参加させて頂き、2日間という短い期間ではありましたが、全国の同期とディスカッションを行い、新たな知見や考えに触れ、多くの刺激を受けることができました。

SGDを行う中で、皆がそれぞれの立場やこれまでの経験からこれからの薬剤師のあるべき姿について意見を持っており、自分もこれから社会に出て活躍するために何が必要なのか、改めて考えるいい機会になりました。また、講師の先生方、タスクフォースの先生方、先輩方のお話を伺う中で私たちが社会に出たときにどのような働きが求められているのか、ALL薬剤師として何が必要なのかを考え、共有することができたと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました関係者の皆様、ならびに参加された先生方、参加者の皆様に深く御礼申し上げます。

グループ I C 松本 恵実

6年間という長い教育期間も終盤に差し掛かり、巣立ちの時まであと半年。日本の中心部、東京という土地で出会った71名の同志たち。彼らは今すぐにでも羽を広げたくてうずうずしている様子だった。討論では有り余る熱量を互いにぶつけ合い、この6年間温めてきた思いや、将来へのヴィジョンを共有した。教育を受けた環境も違えば、見据える将来も異なる、そんな彼らの意見は大変に刺激的であった。

いまさら何をと言われるかもしれないが、今回のWSを通して私は初めて「薬学教育」が確かに自分を支える基盤となっていることを実感した。さらに感銘を受けたのは、この基盤はほとんど全員が同様のカリキュラムに従い築いてきたはずであるにもかかわらず、各学生がそれぞれに異なる自分なりの理論を持ち、多様なアプローチで薬学、ひいては医療の発展に貢献したいという思いを抱いていたことである。これも、6年という十分な期間があつてこそ養うことのできた、問題提起・解決能力によるものなのかもしれない。社会に羽ばたいた後の皆の活躍が楽しみである。いつか出会った際に恥じることもないよう、自分も研鑽に励みたい。

最後に、このような素晴らしい機会を設けてくださった日本薬学会の皆様、卒業生の皆様、議論を交わした仲間たち、WS開催に関わる全ての皆様に、深く感謝の意を表したいと思う。

グループ I C 村田 俊介

ワークショップで一貫して考えたことは「薬剤師とは何か？」という本質的なテーマである。薬剤師の果たすべき法律上の目的は、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、国民の健康な生活を確保することである。一般にこれまで薬剤師は、薬局や病院の医療従事者の一職種という認識が強かったように感じる。しかし、近年医療の高度化や少子高齢化をはじめとする社会問題により、薬剤師の果たすべき役割はさらに広がりを見せている。例えば、

新薬の研究開発を担うアカデミアや製薬企業、医療上の課題や医療技術の価値を判断できる行政職、薬局や創薬ベンチャーを育てる経営者、地域包括ケアをつなぐコンサルタントなど、医療に関わるあらゆる場面に薬剤師は貢献できる。ワークショップにおいて、大学によって幅広い情報に触れる機会に大きな地域差があることを痛感したが、全国の薬学生が一堂に会しお互いの経験や考えを共有することで、足りない視点を補い合い、共に高い視点でこれからの医療における薬剤師の役割を考える大切さにも気づくことができた。今後も自身の専門性を確立しつつ、ワークショップで得たつながりを最大限活かし、薬剤師の在り方について常に考え続けていきたい。

グループ I C 吉原 勇作

今回のワークショップは非常に有意義だった。それは以下の3つの機会が得られたからである。

1つ目は、6年間の学生生活を振り返ることである。薬学科に在籍する学生は6年間という長い期間で様々なことを学ぶが、そこで何を身につけることができたかを考える機会は今までなかった。ワークショップを通して、6年間で身についた点、まだ未熟である点を明確化でき、今後の課題とすることができた。

2つ目は、学外の面白い人と活動できたことである。今回、全国の薬学生と話す機会があり、私が如何に狭い世界に生きていたか痛感できた。

3つ目は、教育力の重要性を再認識したことである。薬学教育だけに当てはまることではないが、次の世代に知識や技術が正しく伝達されなければ、次の世代はまた一から知識や技術を積み上げなければならない。知識が正しく伝達されれば、次の世代は前の世代を土台に、よりレベルの高い知識や技術を得ることが可能である。この循環を生み出すには、知識を正しく伝達する能力が必要であり、それが教育力であると理解することができた。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の先生方、共に過ごした同期生の方々に心より感謝致します。

グループ II A 阿部 耕大

全国の薬学生と交流する貴重な機会でした。3度のSGDや交流会を通し、同じコアカリキュラムを履修してきた薬学生が6年間の教育をどのように評価しているのか、またどのような薬剤師像を描いているかについて意見交換をでき、とても有意義な時間となりました。特に薬学生のキャリア形成に大きな影響を与え得る実務実習が、実習先によって想像以上に異なっている点に驚愕しました。大学ごとに様々な特色があるように、実習先の特色があることは想像できます。しかし、特定の实習先だけでなく複数の病院、薬局での実習を中長期的に経験することができれば、薬剤師の職能をより深く理解する手助けになるのではないかと考えます。

また、多くの学生が薬剤師としての将来像をはっきりと考えている点に刺激を受けました。地元の医療に貢献したい、治療ではなく予防に注力したい、専門薬剤師を取得したい等、それぞれが薬剤師という職を活かして社会に貢献していくのだという強い決意を感じることができました。今回のWSで形成した繋がりを大切にしながら、皆に負けずに努力していきたいです。ありがとうございました。

グループⅡA 大森 照太

今回のWSに参加して感じたことは、同じ薬学部6年生でも将来の薬剤師について考えていることが大きく違っていたということです。SGDでは、自分がこれまでに考えたこともない視点からの意見がどんどん出てきてそれについて熱くディスカッションできたことはすごく刺激になり、将来の薬剤師像をより深く考えることができました。私は淡路島出身であり、地方出身者だからこそこのWSで感じたことは、学生の時点でもうすでに医療に対する考え方に地域格差があることです。たしかに都会では実現できそうだなと思うことでも地方ではなかなか難しいのではないかなと思うことが多々ありました。時間が限られていたのが本当に残念と思うくらいより深く討論したかったです。日本の医療について真剣に意見交換できたこと、同じ志を持っている全国津々浦々の同期のみなさんとのつながりを持てたことがこれからの人生の糧となったと思います。これからも仲良くしていただけたら幸いです。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました日本薬学会の関係者の皆様、タスクフォースの先生方、先輩方、そして同期の皆さまに心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

グループⅡA 黒田 彩佳

この度の第8回全国学生ワークショップに参加し、全国の薬学生の方々と交流し、各大学での取り組みの違いに驚くことも多く、また周囲の意識の高さに刺激を受け、とても貴重な経験をさせていただきました。

今回のテーマは「6年間の薬学教育や将来の薬剤師像」についてでしたが、議論を進めていく中で、教育者の立場になって薬学教育について考えたことがなかったことに気づき、私達が6年間の薬学教育の中で出来なかったことは何で、どのような授業を設ければ良いのかを考えていくのがとても新鮮でした。今後求められる薬剤師像については各々が将来活躍するフィールドの違いにより自分とは異なる視点からの意見を聞くことができ、得るものが多くありました。

今後ますます機械化が進んでいく中で、対人でなければ出来ないことの中に薬剤師の役割を見つけていき、専門性を高め、自ら行動していく薬剤師が求められることを学びました。この度の経験を糧とし、より良い医療人となれるよう努力し続けたいと思います。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

グループⅡA 澤田 淳

今回のワークショップを通じて、大学や将来に対する様々な視点や、同期生の熱意を感じ取ることが出来ました。全国の薬学生と討論出来たことで、自分の視野が大きく広がったと確信しています。

グループ討議では、「10年後の薬剤師の姿」をテーマにしたSGDが印象に残りました。私たちのグループでは地域医療への貢献に焦点を当てましたが、議論を進める中で、自分の視野がごく限られた環境に縛られていると痛感しました。地元の環境を踏まえての、私では思い付けないような意見もあり、とても刺激を受けました。

講演では、今の薬剤師、薬局の在り方の問題点についてのお話があり、将来の薬剤師像について、もう一度考える機会になりました。副作用を見て患者を見ていない、という状

況に陥らないよう、今回のワークショップでの講演を忘れずに精進していきたいと思います。

最後になりましたが、有益な議論を交わしたⅡAグループのメンバーを始めとした参加者の皆様、このような貴重な機会を与えてくださった先生方、先輩方に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

グループⅡA 鷹觜 彩香

二日間のワークショップを終えて一番に感じていることは、このワークショップに参加して良かったということです。全国の大学から集まった初対面の学生と意見を出し合い、薬学教育の成果や課題について討論するという内容に、参加前は不安を感じていました。しかし、様々なテーマで討論を重ねるうちに互いを知り、参加者の熱量に感化され、最終的に自分の内に秘めていた夢を語れるまでになりました。他大学の学生が過去や現在、将来についてどのように捉え、考えているのかを知ることができたのも、個人的には大きな成果と感じています。

全国規模で薬学生が集まる機会はほぼなく、定期的に行われているこのワークショップは他大学の学生と交流できる非常に貴重な機会です。自大学以外の6年制薬学部先輩である、薬剤師の方々の現在の様子やメッセージを直接聞ける場でもあります。卒後のネットワークを作る上でも重要なワークショップであり、実際に、多くのつながりを得ることができました。後輩たちのためにも、今後もこのワークショップを継続して開催してほしいと強く思います。

グループⅡA 東平 佳弥

今回のワークショップ参加にあたり、全国の薬学生が集まるということでとても期待して会場に臨みました。その期待を寸分も裏切ることなく、綿密に企画していただいたアイスブレイクから全てのセッションに至るまでとてもハイレベルな議論を行うことができ、新たな経験と自信を培うことが出来たと自覚しております。

今回の貴重な経験を通じて感じたことは、自身が日頃から考えていた医療問題や薬剤師のあるべき姿、これからの薬学教育について、皆同じような意見を持っており、さらに各々が経験したことから私も気づかなかったような意見を教えてもらい、次世代の薬剤師界を担う我々の未来がどのように発展していくか、その希望の片鱗を強く感じ、セッションを通じて出てきた問題点にも、各々の高い目標を持って取り組んでいけるのではないかと強く感じました。

薬剤師が今後生み出す価値がさらに向上するように自分も高い希望を持って発展に取り組まなければならないと、強く刺激を受け、「オール薬剤師」として薬剤師ならではの多様性を感じることもできました。

私自身、今後もこのような機会が下級生、後輩にもあつてほしいと感じましたし、実際の体験をお話しさせていただきたく思います。特に全国に、切磋琢磨できる仲間が増えたことが、非常に嬉しい経験と感じました。

最後になりましたが、素晴らしい今回の機会を与えてくださいました日本薬学会の方、ならびに関係者の皆様方に強くお礼申し上げます。

グループⅡA 野尻 悠斗

本ワークショップ (WS) で他大学の薬学生と薬学教育や将来の薬剤師、または医療の在り方について、真剣な討論ができ、有意義な2日間を過ごすことができました。私が印象的だったのは、みなさんの人間性の良さです。あいさつや時間を守るという当たり前のことを当たり前にできる人たちばかりで、ディスカッションをスムーズに進めることができましたし、何よりみなさん楽しそうでした。

第三部の「10年後の薬剤師の姿を考えてみよう」の討論では、私が以前に考えていたことを夢に掲げる仲間がいて、刺激を受けたと同時に、「何事も一人から、始まる」ということを思い出すことができました。また、紀平先生や、先輩方のご講演では、薬剤師の任務について、改めて考えさせられました。大学の仲間や後輩にもフィードバックすべき内容だと感じました。

今後は、本WSに参加した一人として、責任ある行動をしていこうと思わされた2日間でした。参加できたことを光栄に思います。

最後に、本WSに関わられたすべての方々に心より御礼申し上げます。

グループⅡA 松岡 里英

今回のワークショップでは、他大学から多種多様な考えを持った薬学生たちと意見交換・議論ができ、とても刺激的で実りある2日間でした。

他大学の学生とのディスカッションでは、各々が異なる大学や実習先で学んできたからこそ様々な意見を聞くことができました。今まで自分には無かった考え方を知ることができ、大学内で行うディスカッション以上に学ぶことの多い内容となりました。また、これからの薬剤師には何が求められるのか、そのニーズに対して自分達はどのように行動していくべきなのかを改めて考える良い機会となりました。さらに、自分の価値観や考えを改めて整理し、それをお互いで共有することの大切さも実感できました。今回のワークショップを通して得た出会いと経験を励みとして、社会に求められる薬剤師となれるよう日々努力していきたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった日本薬学会関係者およびタスクフォースの先生・先輩方、そして共に議論を交わした同期の皆様に心より感謝いたします。

グループⅡB 久保 光

自分は来年度から薬剤師としてではなくメーカーで開発・研究者として働くため、今回このWSに参加するにあたり、薬剤師についてしっかりと議論できるか不安な所もありました。しかし力強いパッションを持ったスタッフの皆様をはじめ、貴重なご講演をしてくださった先生や卒業生の方、ともに討論できた同期のおかげで楽しく参加できました。

2日間と短い時間でしたが、自分はこれほど深く薬剤師のあり方や薬学教育についてお互いに意見を出し話し合うことが今までなかったので、自分の知見や視野を大きく広げる良い機会になったと思います。またご講演で印象的だったのは「Better late than never」という言葉です。受け身になりがちだった自分の考え方を一掃するようすごくいい言葉だと思いました。

最後になりましたが、このWSに参加して自分が医療人としてどのような行動をしていかなければならないかが分かり、またそれらを実行する自信も付けることができました。2日間本当にありがとうございました。

グループⅡB 柴田 かおり

時間が経ってしまうのが惜しい、と終始感じるほど楽しく有意義な時間を過ごすことができました。何より今回の WS で得た財産は、素晴らしい仲間との出会いです。みんな薬学の未来を真剣に考え、現状で満足することなく、未来の社会を見据えた薬剤師の在り方を目指し挑戦しようとする強い志を持っていました。このような薬学生が全国にいる日本の薬学の未来は明るいと確信しました。

私自身、今まで勉強してきた意義を見出すと同時に、自分で考えること、自分の意見を発信すること、人の意見に耳を傾けること、そして妥協せず夢を実現することに対して貪欲であることの重要性を実感しました。薬剤師を取り巻く社会の制度に左右されて妥協するのではなく、薬の専門家としての覚悟と責任を持って、主体的な行動により社会貢献できる薬剤師になりたいと思います。また未来の薬剤師の教育にも携わりたいと強く思います。薬剤師として活躍できることに誇りを持ち、邁進していきます。

これから先、くじけそうになることがあっても、WS で得ることのできた学びや、出会えた仲間が存在が心の支えになり、時に薬剤師人生を左右するのではないかと感じています。WS 開催にあたりご尽力してくださった関係者の皆様、そして共に高め合った学生の皆様に心より感謝申し上げます。

グループⅡB 西平 恵

私は、この WS に参加して心に残った言葉があります。それは、『薬を見て患者を見ずにならないで』という言葉です。

この一言に、今まで私が言葉に出来ていなかった“理想の薬剤師像”が表れています。薬剤師は本来患者さんの病気を治すために薬の知識を持っているはずなのに、薬の知識が先行するあまり患者さんの状態に目を向けられていない時があると思います。私自身、5年次の実習でその状態になったことがあります。また、WS でもおっしゃっていたように、薬を渡すだけなら真似をすれば誰でも出来る。しかし、専門性とはしてはいけないこと（危険なこと）を理解しているか、そしてその解決策が分かっているかどうかだということは、まさにその通りだと思います。だからこそ、薬剤師とは薬を渡す人ではありません。患者さんがどういう状態なのか、最近何か変化があったのかなどを患者さんから聞いたり見たりして知る必要があります。それが患者さんに寄り添うということだと私は考えています。薬剤師の役目は患者さんの病気を治すこと。このことを胸を張って言える薬剤師になれるよう努力していこうと思います。

グループⅡB 原田 大雅

今回の日本薬学会全国学生ワークショップに参加して本当に良かったと感じています。まずこれまでに他大学の薬学生とこのように交流し、お互いの意見を交換し合う機会は無かったので、非常に貴重でいい刺激になりました。参加者の皆さんは各大学の代表ということもあって、それぞれが自分自身の考えを明確に持っており、それを能動的に発信できるスキルに長けていたので2日間を通して有意義なディスカッションをすることが出来たと思います。特に今回のテーマの一つでもある「将来への想い」について自分の10年後の薬剤師としての姿を考えた際には、自分がこれまで考えたことのないような新たな視点を他人の意見から得ることができ、それを叶えるために今自分たちがすべきことは何か、そして自分の目指す薬剤師像について改めて考え直す良い機会となりました。また、文部科学省やPMDAの方のご講演を聴いて、薬剤師の存在意義・社会が薬剤師に求める役割につ

いて理解を深めることが出来たと思います。今回の経験を活かし、今後も研鑽を重ねていきたいです。最後になりますが、今回のワークショップの開催にご尽力してくださった皆様方に深く感謝申し上げます。

グループⅡB 馬籠 将

今回のワークショップに参加された学生は皆積極的でした。通常8人でSGDをすると討論に参加しない人が3～4人は出てくるはず（私個人の経験則）ですが、今回は1人もいませんでした。役割分担も自分から進んで立候補し討論が進んでいく状態で、それだけ今回ワークショップに参加した学生は意識が高かったと改めて感じています。

第2部の中で、伝えたいイメージはグループ内で共有できているがそれを文章にする事が満足にできず、私が発表を行いました但伝えきれず非常に悔しい思いをしました。自分思いや全体の意見を文章にして伝える能力が未熟であることを痛感させられました。この2日間、普段の大学生活からは得られない考え方や知識を得る非常に有意義な時間になったとともに、自分の弱点を確認する事ができました。

最後になりますが、貴重な機会を提供してくださった日本薬学会関係者の皆様、ともに討論をした学生に感謝申し上げます。2日間ありがとうございました。

グループⅡB 椋 里菜

今回はワークショップに参加させていただきありがとうございました。

全国の薬学生が集まるという貴重な時間の中、どの議論でもみんな活発に意見を出し合い、積極的に参加している姿やモチベーションの高さにとても刺激を受けました。

同じ学年・同じ学部だからこそ共感できることがあったり、自分とは別の視点からの意見・視野の広さに圧倒されたり、将来の夢について語り合ったりと普段の大学生活では味わえないような有意義な時間を過ごすことができました。また、自分と向き合い将来について考えるいい機会が持てたと思います。

目指す薬剤師像や働く場所、考え方や生き方はみんなそれぞれ違いますが、根本には「患者さんのために」という思いを持って、みんな頑張っているのだなと実感できたことがすごく印象に残りました。また卒業生の方の話の中にあつた作業と仕事の違いについて、ただ日々の課題をこなすだけになっていないか？という言葉が心に残っていて、どんな時でも自分でしっかり考えることを忘れないようにしようと思いました。これからもこのワークショップで得た発見、視野の広さ、薬剤師になりたいという気持ちを忘れず頑張っていきたいと思います。

グループⅡB 村上 智紀

第8回全国学生ワークショップに参加させて頂き、「薬剤師は患者さんのために働く」という意識の重要性を学びました。その理由が2点あります。

1点目は、全国の薬学生との交流によるものです。ワークショップで出会った学生は、病院や薬局をはじめ、製薬企業やCROへ就職される方、また大学院へ進学される方もいました。同じ薬剤師でも進路が多岐に渡りますが、どの学生も「患者さんのために」を第一に考えていました。

2点目は、紀平哲也様による講演です。今回講演して頂いたお話の中に、「薬剤師は他の医療従事者と比較して、患者を治すのが仕事である」という認識がまだ低い」というもの

がありました。薬剤師である前に医療従事者として、患者さんを治すという意識を常に持ち続ける大切さを学びました。

以上2点の理由から、職種に関係なく患者さんを第一に考える大切さを学びました。私は来年、実際に患者さんと接することのない臨床開発職に就職します。患者さんと接する機会がなくとも、自分が「患者さんのために」働いているということは常に念頭に置きたいと思います。

末筆ながら、ワークショップ開催に際して、ご尽力頂いた関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。

グループⅡB 本車田 悠希

今回、全国学生ワークショップに参加させていただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。学内でも何度もSGDを経験したことはありましたが、全国から集まった学生の皆さんと意見を交換する中で今まで私が考えたこともなかったような考えを聞くことができ、これまでの振り返りや薬剤師の将来について改めて考えることができました。

この2日間を通して最も強く感じたことは、これから働く環境やフィールドは違っていたとしても患者さんに対する想いや教育に関する想いは皆変わらないのだということです。これから私も社会に出ていくことになりますが、この2日間で共有した夢や想いを忘れることなく日々精進していかなければならないと思いました。

最後になりますが、今回ワークショップを運営して下さった関係者の皆様、SGDのサポートをして下さったタスクフォースの先生方、そして貴重な意見を聞かせてくれた参加者の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

グループⅡC 大西 恵加

今回、このワークショップに参加できたことは私にとって本当に有意義なものとなりました。私は将来災害医療に携わっていきたいと考えているので、今回全国の同期と出会い、全国の薬剤師の知人ができたことは大変貴重なことでした。

今回のワークショップのテーマであった6年制薬学教育についてですが、6年生を迎えた今までカリキュラムについて考えたこともありませんでした。もちろん、もっとこういう勉強がしたい！など意見はあったのですが、実際にカリキュラムを考えてみるなどといった行動には移したことはありませんでした。第二部でカリキュラムを作ってみたことで、変化を求めるなら自ら行動しなければならないという意識が芽生えました。病院薬剤師として社会に出た時には変化を待つのではなく、自らが動いて変えていくという想いを持って活躍していきたいと思います。

最後にこの様な場を用意して頂いた日本薬学会の方々、準備にご尽力いただいた先生方その他関係者の皆様に心より感謝いたします。

グループⅡC 沖村 里咲

今回のWSに参加し、自身が6年間の薬学教育を受けてきて、何を学んだのか、何を身につけることができたのかを振り返るとともに、全国の大学で共通して学んでいること、各地域や大学で異なっていることを知ることが出来、大変良い機会となりました。

また、個人的には薬学教育や臨床教育に興味を持っているので、異なる地域・大学で学んできた学生と、教育について議論できたことは大変貴重な経験となりました。自身が受

けたかった実習内容を実際に受けていた学生から、その実習の良い点・悪い点を聞くことが出来たり、ただ受けてきた教育の足りない点を考えるだけでなく、改善策も考えたりすることで建設的な議論ができたと思います。

そして、今回の WS で今後様々な地域・業界で活躍する仲間に出会うことができました。たった 1 泊 2 日の時間を共有しただけですが、過ごした時間は大変充実したもので、「距離は遠いけど同じ業界だし、また会えるよね」「こっちに来ることがあれば連絡してね」と声をかけあえる仲間と出会えたことは、かけがえのないものだと思います。今回はこのような機会を頂き、誠にありがとうございました。

グループⅡC 上堀 正博

本ワークショップに参加する前。卒業後について、進路は決まっていたが明確な夢はなく、自分が薬剤師としてどのように働いていきたいのか不透明だった。そのためか、勉強に対するモチベーションも、低学年の頃と比較して下がってきているように感じていた。そんな折本ワークショップに参加させていただき、参加者や先生方との討論や交流を通して刺激になることが多かった。特に紀平さんの講演の中で、多くの薬剤師が自身の仕事に対し、患者の病気を治すという“目的”ではなく調剤や疑義照会のような“手段”にフォーカスを当てており、それこそが他の医療職との仕事に対する意識の低さの表れであるという話に感銘を受けた。そして自分を振り返り、先に述べた勉強に対するモチベーションの低下は、私がこれから仕事とする薬剤師に対する意識の低さが原因であることにも気付かされた。

今回のテーマは薬学教育であったが、どの分野においても、本ワークショップのようなひとつのきっかけから状況が改善していくということを実感することができた。今回得た多くの体験を将来に存分に活かしていきたい。

グループⅡC 齋藤 寛之

第一部の world café では、学生間で過去・現在・未来を語り合うことで、各々の印象や価値観を共有することで第二部以降のセッションを円滑かつ雰囲気良く行うことに繋がった印象があります。

セッションⅠでは、たとえ大学、また公立・私立、そして都道府県は違えども身についてきたものは学生間では共通であったという印象が強いです。特にコミュニケーションに関して、医療系を除く他学部が学ぶようなビジネスコミュニケーション等ではない医療者としての倫理観のあるコミュニケーションも大いに学習できたという共通意見が飛び交っていたことが印象的です。

セッションⅡでは、各々の大学の教育の特色に大きく左右された意見が述べられていたという印象です。臨床実習が多い大学、研究時間が豊富な大学による違いにより、班員の経験内容に差があったと思います。

セッションⅢでは、少子高齢化に対する対策、及び AI の発展における薬剤師の業務のあり方の変化、のこの 2 点がどの班も問題視していた印象があります。

第四部では、地域包括ケアシステムを推進していく中で、薬局がより患者の薬物治療に介入し責任を持つことが重要であると感じます。

グループⅡC 高野 友輔

日本薬学会第8回全国学生ワークショップに参加させていただき、他大学の多くの学生と交流することができたことは大変貴重な経験となりました。WSでは「6年生薬学教育について望むこと」について話し合いました。6年生の薬学教育はモデルコアカリキュラムに従って授業や実習を受けることになっていますが、大学によっては他の医療系学部との交流や学外活動などがあり、大変貴重な話を聞くことができました。様々な話を聞く中で、特に地域によって医療の格差や薬剤師の業務内容の違いがあるということが印象的でした。6年生薬学教育の中で、ただ薬剤師に必要な知識や技能の習得に力を入れるだけではなく、日本各地で薬剤師がどのように活躍しているのか、という話が聞ければ薬剤師という職種ももっと魅力的なものになると考えています。最後となりますが、このような場を提供してくださった関係者の皆様、タスクフォースの先生方、そして共に議論をした方々に感謝御礼申し上げます。

グループⅡC 船橋 智子

71校の学生が集うことは、なかなかない機会なので、このWSに参加出来て、今後において、非常にプラスとなった。それぞれの学校から選ばれた理由があるように、接した全ての人が非常にエネルギッシュで、自分の将来に関して自信を持って語っており、こんなに素晴らしい人達が今後も同級生で、日本の薬剤師を引っ張って行くのだと思うと、非常に心強く、励みになった。

卒業生の方々、それぞれの講演のメッセージ性が非常に強く、卒業しても、先輩方のような“熱い想い”を持った薬剤師になりたいと思った。6年制薬学教育のPDCAサイクルを回している方々と同じ時間を過ごし、意見を交わす機会があったというのが、自分にとって大きな経験の糧となったし、今後の将来を考える上で非常に良い影響を受けた。薬剤師として求められる基本的な資質の10項の内の教育能力に関しては、どのフィールドにおいても必要な部分であると思う。来年からは社会人1年目となるため、学生時代に引き続き、教育される場面が多いと思うが、教育する側として活躍できる場はあると思うので、薬学を取り巻く教育をより良いものとする為に、自分達で出来る事を見つけることから始めたいと思う。

グループⅡC 松原 結

この度、ご縁がありまして第8回全国学生WSに参加させて頂きました。今まで他大学の学生とディスカッションをしたり、交流を深めるといったことを積極的に行ってこなかった私にとって、WSの参加はいわば挑戦のようなもので、かなり不安があったのですが、全国の薬学部生と意見交換することができ、実りある2日間を過ごすことができました。

進路も考えも様々な皆さんと交流して、私は自分の視野の狭さと考えの浅さを痛感しました。WSに参加する前まで、私は薬剤師になることをゴールに設定し、そのことしか考えていなかったように思います。しかし、各セッションのSDGや討論などで皆さんの発言を聞いて、将来のビジョンや明確な目標を持っていることや、多方面にアンテナを張って情報収集していることが伺え、自分より一つも二つも上のレベルにいるように感じました。

今回のWSを通じて、全国の薬学部生との交流や情報交換はもちろん、多種多様な意見に触れたことで自分の今までの姿勢や将来に対する考え方を見つめ直すことができました。この経験を糧とし、より精進していきたいと思います。

最後となりますが、今回このような貴重な機会を設けて下さった関係者の皆様、並びに

参加者の皆さんに感謝申し上げます。

グループⅡC 宮坂 知英

今回、日本薬学会第8回全国学生ワークショップに参加させていただき、ありがとうございました。このワークショップに参加したことは、私にとってかけがえのない経験となりました。全国の薬学生と討論を交わすことで自分自身の考えだけでなく、多様な考え方があることに改めて気づかされ、自分の視野の狭さを痛感しました。1日目は6年制薬学教育について各々が大学での講義や実務実習での経験を語り、大学や施設により学習内容に大きな差があるのではないかと感じました。時間内でプロダクトを仕上げるのは大変でした。2日目は10年後の薬剤師の姿について話し合い、夢や将来への想いを共有しました。薬局や病院だけでなく、製薬企業や大学院へ進学するなどさまざまな進路に進む仲間に出会い、多くの刺激を受けました。とても充実した2日間でした。このワークショップを通じて出会った方々とのつながりを大切に、これからの薬学の発展に貢献できるよう自己研鑽に努めていきたいです。

最後になりますが、このような貴重な機会を設けてくださった日本薬学会ならびに関係者の方々、そして2日間共に過ごした同期生に心より感謝いたします。

グループⅢA 有沢 成美

今回参加させて頂いた日本薬学会第8回全国学生ワークショップを通して、私は多くの気づきを得ました。その中でも1番驚いたことは、「同じ科目でも学校により講義方法が大きく異なるということ」です。私の学校では、他校と比べ座学が多いことが分かりグループワークを取り入れることで、インプットのみならずアウトプットも行え、より効率的に知識が定着するのではないかと感じました。

また、学生生活では固定された仲間と一緒にいることが多く、視野が狭くなりやすいため、このような場に参加し多様な価値観に触れ、視野を広げることが大切だと思いました。本ワークショップを終え、多くの刺激を受けることができ医療人として新しい価値を生み出し続けられる人材になりたいと改めて思いました。このような機会を設けて下さった日本薬学会様、またご講演下さった皆様、誠にありがとうございました。今後も積極的に物事に参加していきます。

後輩の皆様も参加し、たくさんの刺激を受けてください。

グループⅢA 宇野 駿也

今回ワークショップに参加して他大学の方と出会い、多様な考えを知ることができました。他の大学の方と話す機会というものは少なく、ここで多くの人と知り合えたことは、貴重な機会だったと思います。集まったのは薬学部6年生と同じ条件ですが、それぞれの進路は、病院・薬局・企業・研究と違いました。なぜその進路を選んだのか、そこで何がやりたいのかを話し合い、自分とは違う進路に進む方達の熱い思いを聞き、感じたことで、薬学関連職種に対する理解が進んだように思います。また、他の方の考えを知れたことのみならず、多くの意見を聞き議論を重ねていく内に、自分のしたいことは何なのか、薬剤師としてどうなるべきか、自分なりに考えが深まったことも今回のワークショップに参加した大きな成果の1つです。実際に社会人として働くと考えが変わっていくと思いますが、今回のワークショップで考えたことは、薬剤師として働く前の考えとして忘れずにいたい

です。

グループⅢA 大石 笑子

今回、全国学生 WS に参加することができて本当に感謝しています。2日間とても有意義な時間を過ごすことができました。全国各地から集まったさまざまな夢をもつ同年代の学生たちとたくさんお話しができ、多くの刺激をもらいました。特に印象に残ったのは、“これからの薬学・医療業界をリードしていく”覚悟と情熱がある学生にお会いできたのはとても良い経験でした。今回の SGD を通して感じたことは、時代により医療のニーズは変遷し、それに伴って、あるいは変遷する前に我々も変わっていく必要があるということです。そのためには既存のものばかりに頼るのではなく、よりクリエイティブに多くのものを構築していく必要があることを実感しました。大切なことは、業界の隔たりを超えて、たくさんの人と繋がりを持ち、お互いに刺激し合える仲間として、医療に向き合うことが不可欠であると学びました。

これから社会に出る上で、今回の経験を活かして、自分から積極的にたくさんの人に影響力を与えられるように活躍していきたいと思います。このような素敵な会を開催して頂き、本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

グループⅢA 高橋 健人

ワークショップに参加して、これまでに他大学の薬学生との交流の機会が無かったので自分の大学の教育以外を知れるとても貴重な機会となりました。ほとんど全員が知らないメンバーの中で意見を交わしたり討論をしたりと実りある2日間となりました。

私の班は薬局、病院、卸、研究、MR、ドラッグストアと様々な進路だったので将来どんな薬剤師になりたいかという話を聞けて、改めて自分の将来のビジョンを考えることができました。議題に対しても、共通することの他に私の発想には無い発想など様々な意見が飛び交い楽しく過ごすことができました。

薬剤師としての患者への対応と、経営や医療費削減など働いてみないと良く分からない部分もあることも知り、現場に出ている OB,OG の方々の講演も、ワークショップで出会った方々との交流の話も聴くこともできました。非常に意欲のある薬学生達と出会えた素敵な機会を与えてくださったワークショップ運営関係者の皆様と参加者の皆様に深くお礼申し上げます。この経験を将来に活かせるように精進していきます。本当にありがとうございました。

グループⅢA 松岡 芹佳

各大学の薬学生や薬剤師の先生方とワークショップを行う中で、これからの薬学部、薬剤師の在り方について改めて深く考えることができました。また、円滑に話し合いを進める「方法」についても大変勉強になり、全国にはこれほど素晴らしい学生が沢山いるのだと実感しました。そんな皆と2日間活発なワークショップを行い、仲を深められたことも大切な思い出です。また、教育講演で印象に残ったお話がありました。『薬剤師の仕事は何ですか？と聞かれたら、「調剤」や「服薬指導」と答える人が多いと思います。でも医師に仕事は何ですか？と尋ねたら「患者を治すこと」と答えるのです。』というものです。これが医師と薬剤師の意識の決定的な違いであることに気づかされました。薬剤師の仕事も患者を治すことに変わりはありません。目の前の患者の薬物治療に対して、責任を持って仕事ができる薬剤師になることが第一に必要だと思いました。

最後に、このような機会を与えてくださった日本薬学会の皆様、サポートしてくださったタスクフォースの先生・先輩方に深く感謝申し上げます。

グループⅢA 三角 知子

今回のワークショップでは、他大学の人と交流することで多くの学びがありました。特に授業内容の話は興味深く、同じカリキュラムでも、大学によって内容の差が大きいと感じました。しかし、6年制の薬学教育で身についたこと、出来なかったことをSGDで挙げていくと、どのグループも似たような意見が多く、共通した課題が見つかったように思います。また、これまで私は薬学教育を受ける立場にいましたが、これからは自分達も関わっていく立場になるのだと実感しました。

薬剤師は時代とともに変化する職業だと思います。以前は、調剤など作業の要素が強かった薬剤師が、10年後には医師と似たような役割を果たすようになって予想しています。今回のワークショップを通して、薬剤師という職業について考え直す良いきっかけを得ました。

来年から薬剤師として働くにあたり、不安なことも多くありますが、全国の方々とつながりを持てたことを非常に心強く感じています。このような貴重な機会をいただきまして、本ワークショップに関わってくださった皆様には心よりお礼申し上げます。

グループⅢA 三好 一希

今回、第8回全国学生ワークショップに参加できたことで、全国の同期の薬学生と討論することができ、とても充実した2日間を過ごさせて頂きました。特に印象に残った議題は「10年後の薬剤師について」でした。10年後という遠いようで近い自分たちの将来像についての討論は、同じ薬学生ではあるものの、各大学の教育方針や実務実習先での経験、就職予定先の違いなどにより、抱いている意見は様々でした。また、同グループ内に限らず他のグループとも意見を交換することで、自分では見つけることができなかった意見に感銘を受けました。一方で自分の考えの甘さや発言力、行動力の低さを改めて実感することとなりましたが、私個人の固定概念を大きく崩すことができたことは、今後の人生において良い刺激となったと確信しております。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった大学の先生方、日本薬学会の関係者及びタスクフォースの先生方、先輩方に厚く御礼申し上げます。

グループⅢA 安田 勇貴

今回、第8回全国学生ワークショップワークショップへ参加させていただき、全国の様々な学生とお話する機会を得られました。

私は様々な進路を選択した学生の話聞く中で、特に私の大学では薬剤師として病院や企業、公官庁へ行くべきだという風潮が強かったことを感じました。それぞれの進路を選択した抱く想いを聞くことは大きな刺激となり、いつの間にか薬剤師の進路について狭い視野で考えてしまっていたことを実感しました。私は企業に勤めることになりましたが、今回聞くことができた学生たちが持つ様々な想いを忘れず、その想いを支えられるような製品を通じ、広く人々の健康増進へ貢献していきたいと思いました。

グループディスカッションを通じて、薬学教育についても他大学の話を聞き、同じコアカリキュラムでもそれぞれ特有の教育を行っているを知り、教育者側には良い所をそれぞれ

れ活かしてもらいたいと思いました。

今回このワークショップで出会った仲間と、数年後また会って薬剤師としての想いを聞いてみたいと思いました。短い時間ではありましたが有意義に過ごすことができました。貴重な機会を頂き感謝申し上げます。

グループⅢB 芦沢 夏鈴

この度は、このような貴重な経験の場を設けて頂き、誠にありがとうございました。

今回のワークショップを通して、印象に残ったことが2点あります。

1点目は、「教育」という基盤があつてこそ「実践」「変化」ができるということです。「今後薬剤師がどのような貢献をし、どのような存在になっていくのか」ということは、まずはそのことに対する教育が適切に行われることが第一であることを改めて実感しました。

2点目は、「仲間の大切さ」です。「社会の変化に伴う薬剤師業務の変化」等の話がありましたが、変化を起こすには仲間が必要であり、どのような考え方をした人がどのような場所にいるかを知る必要があると考えました。最終 SGD において 10 年後の未来を考えた際には、今後は環境の変化が著しい中で、同職種・異職種間のチームとして社会に貢献する力が、より一層必要とされていくのではないかと感じました。講義型の授業が多い薬学部生は、自身の意見の発信に苦手意識を持つ方が多くいると日々の生活で感じています。今後少しでもこのような SGD を授業に取り入れて頂き、薬学部全体で「個々の力+チームの力」を身に付けていきたいと感じました。

グループⅢB 上田 亮太

今回のワークショップの内容の中でも、第二部セッションⅡの内容が印象的であった。卒業研究や国家試験対策等に取りられる時間が多く、実務実習において身につけられる内容は実習先に委ねられるといった点から、6年制の薬学教育は本当に意味を成しているのかと私は以前から疑問に感じていた。「6年間の薬学教育の中ではできなかったこと」という内容のディスカッションにおいて、他の学生も同様もしくは類似する意見を持つことが分かった。今後の薬学教育では「処方解析」や「レジメン」、「同種同効薬の使い分け」、「患者に応じたコミュニケーションの取り方」を例に、実習先によって習熟度に差が生じやすい内容をピックアップし、それを実習前後の授業でフォローすることで6年制教育の恩恵をより平等に受けられるのではないかと考えた。また、私立大学において顕著であると思われるが、薬学教育は国家試験をベースに行われている印象があるため、臨床の場での活躍を見据えた教育が中心となるようカリキュラム及び国家試験が変わっていくよう願うばかりである。

グループⅢB 浦山 るみ

今回の全国学生ワークショップに参加して、全国の同学部の他大学の方々と会話する中で、共感できることや新たに学んだことがたくさんあり、とても充実した2日間でした。特に印象に残っていることは、第二部のセッションⅡで6年間の薬学教育でできなかったことについて話しているとき、それぞれの実務実習先での経験談を聴けたことです。実習先によって体験できることは様々ですが、こうして体験やその体験を踏まえた個人の考えを共有することで新しい発見をすることができました。

薬剤師は患者さんによりよい医療を提供するために専門的知識や技能、コミュニケー

ション能力など様々な能力を身につける必要があります。それらの能力を身につけるための現在の薬学教育の恩恵と課題を話し合ったうえで 10 年後私たちが取り組んでいきたいことについて話し合うことで、自らを省み、私たちの今後の課題について深く考えるきっかけとなりました。このような貴重な話し合いの機会を設けていただき、深く感謝申し上げます。

グループⅢB 大田 美香

全国の大学生と共に、薬学教育や薬剤師の将来について語るという機会は非常に貴重であると思うので、参加させていただいたことをとても有難く感じております。

ワークショップを通して、これからの薬学教育や薬剤師に求められる姿について仲間と協力して考えることができたため、非常に有意義な時間を過ごすことができました。特に、「10 年後の薬剤師の姿について考えてみよう」というセッションにおいては、異なる職種の薬剤師同士であっても、オール薬剤師として、患者さんのために力を合わせることの大切さを感じることができたため、とても印象に残っています。

また、諸先生方による教育講演を通じて、医療現場の現状や医療経済に関する知識を深めることができ、自己研鑽や患者さんを想う気持ちの重要性を改めて感じました。

今回得た知識や感じたことを、これからの学生生活だけでなく、薬剤師として臨床現場に出てからも活用していきたいと思います。

最後になりますが、ワークショップに参加する機会を与えてくださった先生方、日本薬学会薬学教育の諸先生方に心より感謝申し上げます。

グループⅢB 片山 滉平

私は今回の WS で多くの学生と交流し、様々な考え方や個々の学生生活の違いを共有できたことがとても刺激的に感じました。自分の大学だけでは出会えなかったタイプの学生の発表を聞いたことや、共にディスカッションを行えたことは、広い視点での考え方の構築の仕方や伝わりやすいプレゼンの仕方を学ぶ上でとても参考になりました。また先生方の貴重なご講演は将来薬剤師になる学生へのアドバイスだけでなく、将来を担う学生への期待も受け取り、薬剤師として働く覚悟を改めて確認できました。

全国で 70 を超える薬学を学ぶ同年代が集結し、テーマに対して討論を行うことは普段の生活では絶対にあり得ない出来事だと感じ、この貴重な機会に参加出来たことがとても嬉しく、そして何よりもこの 2 日間を楽しく過ごせたことでより記憶に残る体験をさせていただきました。このワークショップで学んだ多様な考え方や違いを受け入れながら、信念を持って自分の進むべき道を歩んで社会に貢献できる薬剤師になりたいと強く思いました。

グループⅢB 後藤 紀香

「6 年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと～将来への想いを共有しよう～」というテーマで全国の薬学生と話し合ったこの WS は、薬学教育の重要性および薬剤師の将来について改めて考える大変重要な機会となりました。教育講演や討論を通し、AI の導入や高齢化などめまぐるしく変わる世の中で薬剤師として進化していく必要があることを強く感じました。そしてそのためには、「様々な情報を収集すること」、「医療業界のニーズを理解すること」、「現在の状況を改善するために、積極的に動くこと」の 3 つが重要であると学びました。また全国から集まった薬学生と話す中で、病院、薬局、企業、

行政と働く場所は違っても、皆「患者様の命を救い、医療に貢献したい」という熱い想いを持っていることを感じました。このような仲間に出会えてとても幸せです。今後もこの繋がりを大切にしていきたいと思います。

最後になりますが、このような貴重な経験をさせてくださった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

グループⅢB 古谷 真義

私はこの度、日本薬学会第8回全国学生ワークショップに参加させていただいて、本当に良かったと思っています。全国の薬学部を代表する学生が一堂に会する機会など滅多に無く、薬学の現在の状況や今後について意見の交換やディスカッションを行えたことはとても有意義なものでした。今回出来たつながりは今後どこかで生きてくると思うので、このようなワークショップは今後も続けて欲しいと思います。

ディスカッションする中で薬学教育の重要性というものを一番感じる事が出来ました。各大学、実務実習先によって学べる内容に違いがあることが分かり、統一して欲しいという意見が多かったのですが深く考えていく中で実現するには難しいことが分かりました。しかし、その差のせいで不利益を生むことはあってはならないと思います。ですので、少しずつでも全国の実習先が共通の指導を行える仕組みが出来ることを期待します。また、今回自分も教育を考える機会を与えていただいたので、今後は後進の育成、薬学教育に携って生きたいと思っています。

グループⅢB 横山 佳太

今回の第8回全国学生ワークショップに参加させていただき、全国の薬学生と意見交換を行い、交流を深めることで、自身の考え方や視野を広げることが出来たと感じました。また、他の大学の薬学生との交流が6年間の大学生活の中ではなかったため、とても貴重な時間となりました。

グループディスカッションで過去から現在を振り返り、学ぶことが出来たことを再認識、共有して、薬剤師として働く未来の自分が取り組んでいきたいことを討論しました。目指す薬剤師像が異なる中、その目指す未来に向けてどのようなことが必要か、重要なことは何か、その過程を話し合うことで今後の自分が学ぶべきこと、行うべきことを考える良い機会となりました。他大学の学生との議論や各教育講演を通して、今までになかった視点を見つけて、たくさんの刺激を受けることが出来ました。今回得ることが出来た知識を生かし還元していくことで、薬剤師として成長して社会貢献をしていきたいと強く感じました。

最後になりましたが、今回のワークショップに携わり貴重な体験をさせてくださった皆様に深く感謝申し上げます。

グループⅢC 磯野 櫻季花

実りある時間を過ごさせていただきました。私にとって一番の収穫は、全国の有望な未来を担う同級生と交流を深めることができたことです。また、最も印象に残ったことは、討論内容を統括し筋の通ったシナリオを作成したチームメンバーです。限られた時間の中で議題ごとに多様な意見を聞き、論議内容を一つにまとめることは容易ではありません。加えて、コミュニケーションとは「相手に伝える」「相手の意見を聞く」という簡素なもの

ではなく「伝える相手に自分の意図した行動を起こさせること」がコミュニケーションの真骨頂です。自分たちの意見を反映して貰える二度とない機会に、根拠あるアグレッシブな姿勢に感銘を受けました。

保険制度の中で収入を得るには限界があります。また、時代の変化、社会の需要に応じていかなければなりません。しかし高齢者率は増える一方です。能動的に AI と共生することで、結果として薬剤師の価値を上げ地位向上に繋がると考えます。薬剤師の需要が高まり、患者や医師のパートナーとして機能を果たせるよう、今回出会った仲間も含め切磋琢磨していきたいです。最後に、思想・価値観も違う集団に飛び込んで、新たな価値観を得ることで自分自身の成長に繋がりました。ありがとうございました。

グループⅢC 金尾 奈穂美

本ワークショップを通して感じたことは、薬剤師が社会で存在感を示していく為に今後更に薬剤師の職能を開発していく必要があるということである。諸外国と比較し、日本での薬剤師の地位が非常に低いことに各々が危機感を持ち、今回の SGD のテーマにもあった「10 年後の薬剤師の姿について考えてみよう」のように常に 10 年後を見据え、社会のニーズを先取りし、それに向けて今なにができるのか能動的に、「実現可能性」もしっかり視野にいれ、レベルの高いサイエンスに基づいて考えていくべきである。時には、自己研鑽に加え、本ワークショップのように様々なバックグラウンドを持った人たちと議論することは視野を広げる上で有意義であると感じた。

しかしながら、「ALL 薬剤師」を掲げるのであれば、折角の機会なので臨床だけでなく、他職種・他業界で活躍されている方の講演を是非取り入れてほしいと感じた。

最後になりますが、全国の薬学部生と交流する機会は滅多にない為、非常に充実した 2 日間でした。このような貴重な機会を与えて頂き、ありがとうございました。

グループⅢC 菅野 諒太

全国の薬学生みなさん、二日間ご苦労様でした。北海道科学大学の菅野です。夕食会で私の奇妙な絵が表彰され、挙句の果てにはお祭りハッピーボーイと化してしまいましたこと、厚くご御礼申し上げます。

北海道は、時の流れが緩やかな地域であると考えております。なので、生きる時間の速度が違う全国の人達と交流することが、とてもわくわくしました。このワークショップに参加するような学生はどんなクセ、大グセをもっているのだろうと期待していました。と、陽気に参加しましたが、みなさんの薬学、医療への真摯な姿勢と考え方に、ただただ圧倒された二日間になりました。同じ大学内の学生同士では見聞できない考え方、表現の仕方に気づかされました。上には上がいるとは、まさにこのことなのだと実感しました。

10 年後、20 年後...に耳に入る名前があったら、今回の名簿を見かえしてみようと思います。もちろん、私の名前も全国に響くような活動をしていきたいと思います。いい意味で。

最後に、このワークショップを開催してくださった日本薬学会の偉い方々には、感謝しかありません。素晴らしい機会を与えてくださり、ありがとうございました。

グループⅢC 杉浦 礼菜

日本薬学会第 8 回全国学生ワークショップに参加し、他大学の学生との SGD や PMDA の紀平さんや卒業生の先輩方の講演、情報交換会を通して、新しい発見や自分とは違った

考え方を知ることができ、充実した2日間を過ごすことができました。

SGDでは、班員のみんなが自分の意見をしっかりもち、話し合いを活発に行い、説得力のある発表をしており、本当に優秀な方々ばかりで、尊敬すると共に自己研鑽に励んでいきたいと強く感じました。また、情報交換会では、同期の仲間から将来の展望について聞き、刺激を受け、自分を見つめ直すきっかけになりました。今後、自分が薬剤師として何がしたいか、どんな薬剤師になりたいか、もっと具体的に考えていきたいと思います。Better Late than Never...自分のやりたいこと見つけたら、迷わず挑戦していきます。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様、そして一緒にワークショップを行ったグループの仲間に関心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

グループⅢC 永山 なつみ

日本薬学会第8回全国学生ワークショップに参加させていただき、誠にありがとうございました。今までの自分の価値観や視点の狭さに気付く良いきっかけになったと思います。

私は第一部のワールドカフェでテーブルマスターを務めましたが、各大学の特色のようなものがなんとなく伝わり大学が違っていると印象がこのように変わるのかと思いました。だからこそ様々な薬学生と関わるきっかけをいただけて良かったと思います。

第二部以降のグループワークは予定時間では足りないと思うくらいに意見が飛び交い、もっと時間がほしい、もっといろんな観点から意見を聞いてみたいという気持ちになりました。自分の意見を積極的に出すことが出来たかはわかりませんが、とても充実した2日間を過ごすことが出来ました。

新カリキュラム移行後にも続けるかはまだ未定と聞いたとき、この体験をできる学生が数年後にいなくなってしまうのはとてももったいないことだと感じました。今後も活動をしていただけたらと思います。そして、新たにワークショップに参加する薬学生が少しでも新たな自分の一歩を踏み出すことが出来ればいいなと願います。

グループⅢC 増井 翔

2017年1月末に開催された「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」キックオフシンポジウム。当時4回生の私をこれに参加させていただいたのが、薬学教育について考える最初の機会でした。今回、全国約70の大学から薬学生が集う大規模なワークショップに参加させていただいたことには、どこか必然的なものを感じました。

今回のワークショップでも多くを学ばせていただきました。教育講演では諸先輩方から熱いメッセージを受け取り、SGDでは同世代の学生から多様な意見が伺えました。就職や進学などの進路が定まったこの時期だからこそ持ち合わせた考えもあったかもしれません。どの参加者にも考えや価値観の根底には大学生活、ひいては人生での経験がありました。将来への想いは色とりどりで、与えられた時間内では話が尽きませんでした。そうした経験や想いを共有できる貴重な機会として有意義な時間を過ごせました。

末筆ではございますが、本企画にご尽力下さいました先生方に厚く御礼申し上げます。また、ともに良き時間を過ごしました先生方・学生の皆様の益々のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

第8回全国学生ワークショップでは、素晴らしい経験ができました。貴重な機会を設けて下さった薬学会の方々、先生方や仲間にご感謝致します。

講演ではPMDA 紀平先生から、薬剤師に求められることや期待されること、これからの日本における薬学業界の流れなどについて伺いました。中でも「薬剤師の業務が目的になりがちである。業務は目的ではなく手段であること。」この考え方の薬剤師が多い現状であり、身が引き締まる思いとなりました。

議論では「夢」を語り合ったセッションが印象に残っています。各々が将来について明確なビジョンを持っており、見据えて行動しています。薬剤師の働く先は多岐に渡りますが、仲間達はその業界で活躍することが容易に想像でき、とても心強く感じました。私自身もドラッグストアに勤務する薬剤師として「人々の病気を予防することで健康を増進し、社会の役に立ちたい」と明確に考えるきっかけとなりました。

全国の薬学生との交流は、私にとってかけがえのない有意義なものとなりました。目的意識を忘れることなく、向上心を持ち続け、社会に貢献する薬剤師になることを誓います。

卒業生印象記

第1回参加経験者 嶋田 光希

「5、10年後の薬剤師」が、どのような「価値」を患者さんに、医療・介護分野に提供できるのか、様々に活躍されている薬学部出身者の先生方、未来ある薬学生と一緒に考え、実践する事が重要である。

今回で3回目のWS参加となり、薬学生と、卒業生が様々な想い、志を持っていることを改めて知る機会は、大変貴重な機会である。しかし一方で、私自身が薬学生として参加した際の第1回WSの議論と、今回の薬学生の議論内容は、7年たった今もほとんど変わらない現状である。もちろん医療・介護環境が目まぐるしく変わる中で、病院、薬局等の医療提供施設や、薬剤師が求められている事柄も時代によって変わり、それに合わせて薬学教育も変遷してきている。しかし、薬剤師が提供する「価値」を実践する場合は、それほど劇的な変化がないために、同様の議論が薬学生の中で行われていると感じる。つまり、様々に議論が成熟してきた段階である今、薬剤師の「価値」を提供する実践の場が重要である。それぞれの立場、与えられた環境、条件の中で、いかに社会に対して、職能を主体的に実践し、明確な結果を示すことである。私自身においても、様々なステークホルダーの方を巻き込みながら、小さいサイクルの「実践」を繰り返すことで、微力ながら社会・医療に貢献したいと改めて感じた。

最後になりますが、7年前の2011年に薬学生として参加させて頂いたワークショップに、卒業生を代表して、講演させて頂き大変光栄でした。今回このような貴重な機会を頂きました日本薬学会の先生方ならびに関係者の皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

第2回参加経験者 円入 智子

私にとって全国学生WSは“薬剤師としての初心の象徴”です。20代最後の夏、そんなWSに卒業生として参加し、“初心”を再確認出来ましたことは、これからの私の薬剤師人生にとって大きな意味があると思っています。

今年のテーマが学生として参加した際のテーマと同じであるということもあり、セッションの内容も近いものも多く、6年前の自分の記憶や報告書と比較しながら議論を見学させていただきました。当然のことではありますが、6年制教育の定着を感じる事が多く、同じ6年制教育を受けた立場として環境の変化に驚くこともありました。

また、今年は卒業生から3名が各人の現状と今後の展望を学生に話すという時間をいただいていた。臨床を担う薬剤師が増えていく中、薬剤師という職業がいつまでも社会に必要とされるものである為にも、薬学生に多くの選択肢を感じさせることのできる存在になれるように、私にしか出来ないことを探していきたいと思います。

最後に、今年も参加出来る機会を頂きましたことを、心から感謝申し上げます。

第2回参加経験者 黒岩 亮平

卒業生として全国学生ワークショップにて講演する機会を与えてくださったことに感謝いたします。

今の学生達が薬学教育に対して感じていることや、将来に対して考えていることを聴くことができ、本当に良かったと思っています。私達の代と比べて、グループワークでの意見をまとめるのが上手いと感じました。また、それぞれの将来について、熱い思いを知ることができ、頼もしく感じました。今回のワークショップでの成果をより有意義なものにするためには、今後学生達が自らの意志で問題解決に取り組んでいくことだと思います。

また、日本薬学会にも、ワークショップの成果を薬学教育に還元するアクションに結び付けてほしいと願っています。

肝心な事は、「何を言ったかではなく、何を行ったか」です。今回のワークショップをよりよいものにするために、私自身も薬学実務実習での薬学生教育に活かしていきたいと思います。

第2回参加経験者 小嶋 崇弘

ICT や AI 技術の発展に伴う「薬剤師不要論」。WS に参加している学生さんは薬剤師の置かれている立場、医療環境の変化など非常に高いレベルで情報を収集し、それに対し考える能力があることを改めて実感させられた。その一方で薬局、病院で実習を多く体験することから、職種という観点からみれば意見が偏っているようにも感じられた。実際に働いてみると製薬企業、MR、MS、栄養士、レセコンの技術者、ケアマネージャーなど様々な職種の方々との連携・関わりは非常に多い。関わり方を一人ひとりが常に考え、行動し、ALL 薬剤師として団結していくことで、今後の医療業界にイノベーションを起こしていきたい。

卒業生として WS に参加し、どのように関わっていくか課題であった。今回新たな試みとして、セッションで卒業生から学生さんにメッセージを送れる機会が得られたことは大変貴重であった。卒業生の活躍、学生さんとの関わりを通して、社会の変化に対して敏感にアンテナを張り自分を更に磨く努力と経験を共有し同じ志を持つ同士を育てていく使命があることを改めて感じる場となった。

今後も WS などの交流の場を通して仲間を広げていければと心に刻み、第8回全国学生 WS で関わることができたタスクフォースの先生方、学生、OB・OG の皆様に感謝申し上げます。

第2回参加経験者 志田 拓頭

今年の第8回に至るまで様々なテーマで行われてきた学生 WS ですが、今回の教育というテーマは初期の第1回・第2回と同じものです。言わば原点回帰といった感じで、やはり WS はこうでなければ、と思いながら見学させていただいていました。自分達の体験をもとにした、地に足のついた実のある議論がされていたように思います。私の時と同じ点・異なる点に着目しながら聞いていました。

私たちの頃と明らかに異なっていたのは、「6年制」に対する認識です。私たちにとって、教育について考えるとはすなわち6年制教育について考えることでした。6年制卒として何をしていくべきか、プラス2年の意義とは何か、いやいや6年制なんて止めて4年制に戻すべきではないか...第2回 WS ではこのような議論が多く交わされました。ところが、今回は私の見た限りでは、この6年制という点に着目した議論はありませんでした。それだけ、6年制というものが「当たり前」になったということだと思います。これが良い意味での「当たり前」であれば良いな、と思います。

今回は貴重な機会に参加させていただき、ありがとうございました。

第2回参加経験者 北川 奈美

私は卒業後も臨床教育の事を忘れたことはないが、初めて薬学教育へ一歩踏み込んだ会となった。

まず第一・二部において、臨床現場の key word を討議で用い、SGD や発表手法が身につけている様子から、6 年制薬学教育の定着が伺えた。

私は本会で初めての試みとなる卒業生としての発表の機会を頂いた事により、自身が受けた 6 年制薬学教育について振り返り、将来の医療を考える上で教育が必要であること、薬局が次世代の医療構築を成す為の教育現場であるという気づきを得た。発表後に多くの学生が地域医療や薬局薬剤師の多様な業務について質問してきたこと、私のメッセージを受け取り 2 日目の討議・発表で薬局の重要性に触れている様子を見て、素直に嬉しかった。情報交換会で夜遅くまで質問にくる熱い学生、就職に悩む学生、必死に未来の医療に向き合う皆様の顔は今でも忘れない。WS の参加を経て、学生たちが新しい物を得た瞬間に立ち会えたことが幸せだ。

WS の参加を終え、改めて薬局薬剤師としての働き方や地域によって求められる様々な医療について皆様への周知の取り組みを進めることの重要性を感じた。WS で皆様に出会えたご縁を大切に、今後も未来に繋がるように医療と教育の現場を繋ぐ架け橋として働きかけていきたい。

第 4 回参加経験者 津倉 秀幸

5 年連続 5 度目の参加となります。今年の学生も自発的で個性的な方が多く、お互いにぶつかり合い化学反応をしていく様は、何回見ても胸が熱くなります。テーマも教育へ原点回帰しており、学生の皆さんもディスカッションに入りやすかったのではないのでしょうか。学生の皆さんは短い時間の中でプロダクトを完成させるべく、簡単にはゴールにたどり着けない問題の中で悩みながら答えを出してくれました。そこに至る過程が彼ら、彼女らを大きく成長させたと確信しています。また今年は卒業生が直接メッセージを伝えることが出来ました。それは今の自分達から、かつての自分たちへ言葉を伝えられる最高の時間でした。来年以降も卒業生が言葉を紡ぐ時間があれば、それはとてもとても幸せでやりがいのあることだと思います。

最後に、私たち卒業生に大変貴重な機会を与えてくださった日本薬学会の皆様と先生方、第 8 回 WS 参加者、WS 卒業生の皆様にこの場を借りて感謝を送らせていただきます。ありがとうございました。

第 5 回参加経験者 青木 雅史

今回、卒業生として 2 年ぶりに参加させて頂きました。WS では、「6 年制薬学に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと ～将来への思いを共有しよう～」をテーマに臨床的な立場を中心としたディスカッションが行われ、大変刺激的な 2 日間でした。改めて 4 年制から 6 年制になったことで臨床教育が学生にしっかり浸透されており、病院・薬局の立場としての考えそのものであったため大変驚きました。私は、臨床の場から離れ医療従事者らをサポートする立場として、「如何に患者へ適正使用を通して、最大の効果が得られるか。」を日々考えておりますが、薬剤師からの意見を聴く機会は、徐々に減っている状況です。今回の WS を通して、改めてもったいない関係になっていると感じました。互いにできることは異なるので、参加されていた 8 回生や卒業生の皆様と協働して今後の医療に貢献できる活動と一緒に出来ればと考えております。

最後に、私たち卒業生に大変貴重な機会を与えて下さった日本薬学会の皆様と先生方、WS 参加者・卒業生の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

第6回参加経験者 上嶋 仁美

「6年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと ～将来への想いを共有しよう～」をテーマとした第8回WSに卒業生として、参加させていただきました。皆様のディスカッションを見学し、改めて学生のバイタリティ、情熱を感じることができました。私は、現在病院薬剤師として働き始めておよそ1年半が経過したこともあり、主に「実務実習」に関する話し合いに興味を持ち、拝聴しておりました。学生からの率直な意見を受け入れ、少しでも今後の学生に還元していけるよう努力していきたいと思いました。またAIの話が出ておりましたが、当院ではAIを用いて医薬品情報（配合変化、換算、類似薬など）を調べることができるようになりました。AIがもうすでに身近なものになりつつあります。そのうち、ペッパー君が服薬指導してくれる時代が来るかもしれません。そのような時代がきても、皆様には薬剤師ということに誇りを持ち、どんどん活躍していただきたいと思いました。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださいました日本薬学会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

第6回参加経験者 子

学生としてワークショップに参加した時から、卒業生の方が夢を語る姿、自身の経験を基にアドバイスをする姿に憧れ、いつか私も卒業生として参加してみたいと思っていました。今回初めてそれが実現したのですが、学生の皆さんは、学生の時の私よりはもちろん、現在の私よりも深く物事を考えていました。「将来こうなるために今の自分にはこれが必要だ」「それってどういうこと？」「他の人の意見も聞きたい」など、伝わってくる熱い思いに感動し、一人で泣いていたのはここだけの話です。本当に夢や勇気をもらったのは私の方かもしれません。

また今回は、運営側のサポートとして見学させていただき、討論に相応しい雰囲気を作ることの難しさを実感しました。さらに、地域や職種を超えて多くの方とお話させていただいたことで、薬剤師の職能の幅広さ、可能性の大きさや課題を知ることができました。どれも、ここでしかできない貴重な経験でした。

これからも、薬剤師として、医療従事者として、社会人として、皆様と一緒に成長していきたいと考えています。

最後に、このワークショップに参加する機会を与えてくださった皆様に感謝致します。

第7回参加経験者 石野 清亮

去年の第7回全国薬学生ワークショップに参加させていただき、今回は卒業生として学生の討論を見学させていただきました。学生が自分の将来について、薬学の未来について真剣に意見を交わしている様子は、1年前、この同じ場所で志を同じくする友人たちとディスカッションしていた事を彷彿とさせ、心が熱くなる思いでした。テーマに対して自分ならどう答えるだろうと考えるとともに、1年前の自分と今の自分、学生の自分と社会に出た自分が意見を交わしたらどうなるだろうと考えていたのですが、そこでの大きな違いは「スケールの大きさ」だと感じました。病院薬剤師として働き始めまだ半年しか経っていませんが、ここで昔語った自分の将来像に向かって今の自分は努力しているのか、小さくまとめてしまっていないか、学生の皆さん、また他の先輩方の熱い姿から刺激を受け、今一度自分を振り返ることができました。

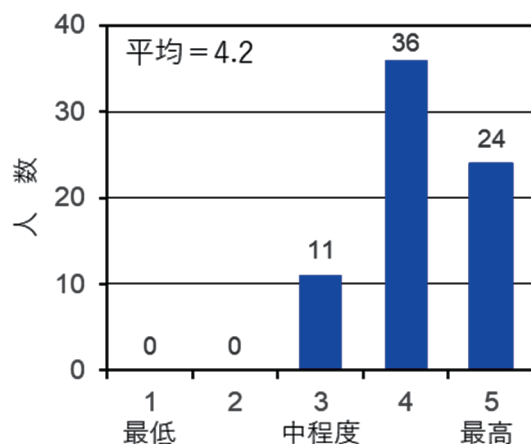
最後になりましたが、今回もこのような素晴らしい場を提供してくださった全国学生

ワークショップ実行委員会の先生方をはじめ、学生の皆さん、卒業生の皆さんに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

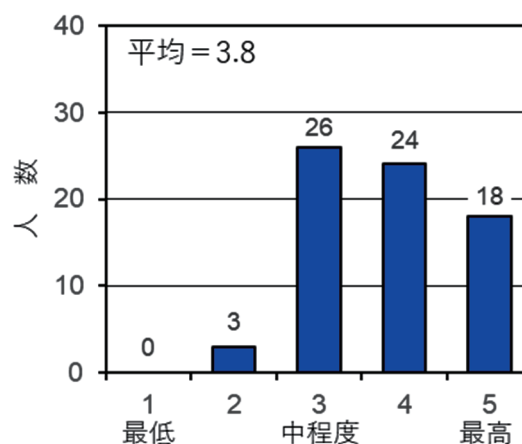
参加者アンケート結果

第1日目の評価

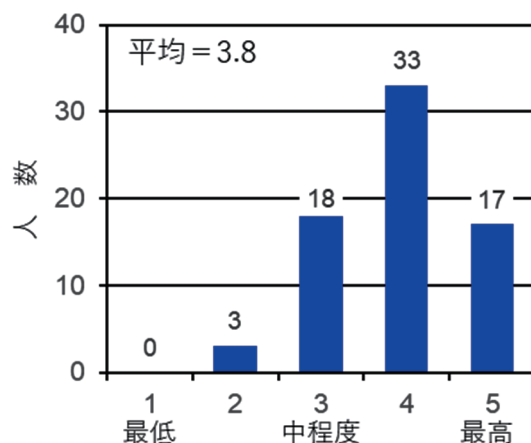
1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



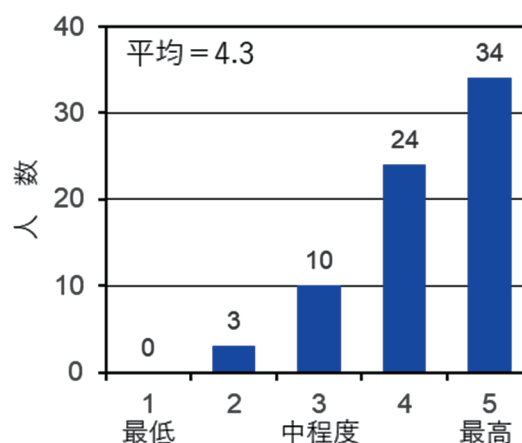
2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



3. 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



4. 今日のタスクフォースの仕事はよかったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか。

- 自分たちが6年間で何ができるようになったのかを認識できました。
- 現在の薬学教育の共通の部分、大学間でのちがひ、求められていることについてよく理解できた。
- 薬剤師の次世代育成における教育が不足している点。私立と国公立で研究に臨むスタンスが違う点。
- 同じ薬学部でも注目している点、志が違う点を理解できた。今、話題になっているのは「教育能力」である。
- 大学間での違い、あるいは共通点。6年間で何を学んできたか。
- 他大学との教育における相異的と共通的。今後の薬学教育の課題と解決策。薬剤師に対する思い。
- 今までの自分が受けてきた教育の良い点、悪い点を見直す機会になった。これからの薬剤師のあるべき姿を皆で考えられた。
- SGDでの「6年間の薬学教育でできなかったこと」のみんなの意見はよく理解できた。

- 人の意見をまとめることの難しさ。同じ方向を全員が向いた時の力。
- 教育によって、薬学生的心中に「コミュニケーション能力の大切さ」「気持ち」といったことが、大きな部分を占めていること。
- 人に意見を伝えること、共有すること。違いをうけいれることの重要性。
- 様々な意見や目標を持つ人がいることを理解できた。
- 多様な意見がある。薬学教育の方針について。
- たくさんの大学の人がいて様々な考えをもっていること。その一方で、根は同じような部分もあること。
- 今の薬学教育の中で必要な部分に関しては、教育指導的な部分であること。
- これからの臨床現場で求められていること、意識していかななくてはいけないこと。
- 6年間の薬学教育でできなかったことについて。どのような授業があれば良いのかというのも非常に興味深かった。
- 大学ごとに実施されている教育に大きな違いがあること。
- 他の大学の学生が薬剤師の今後についてどのように考えているのか。
- 思っていたよりも、薬学生が薬剤師としての将来に描くビジョンは多様でなかった。意識せずとも、教育の成果は現れている。(普段からもっと意識して振り返るべき)
- 他の人の様々な意見を取り入れることができて新たな景気を見ることができた。
- 大学間で大きく授業内容が違うことを実感できた。意見を自由に話せる場の重要性。
- 第2部セクション2はシラバスを自分たちで考えることで、どういったことに注意して学んでいくべきか意識をする必要があると感じた。ふだん行うことのできないことができて楽しかった。
- 6年間で身についたことが、これから薬剤師として社会に出ていく上で大切なこと。
- これまで6年の薬学教育で足りなかったこと、少し不満に思うことを学生目線で共有できた点。
- 他大学や他大学出身の先生方と交流することで新たな考えや発想にふれることができるということ。
- 他大学と学んでいることが異なること、実習先によってもばらつきがあること。自分が思っているような薬学教育の不安や、これからの展望を皆も考えていて、また、先輩たちも考えていること。まだやることがたくさんあるということ。
- それぞれの将来に対する考え方や今後の薬剤師に求められること。
- 実習内容に不満が多いことがわかった。
- 他学生たちの考え方のちがひ。受けてきた教育のちがひ。多様さ。
- それぞれ目指す所が違っていても、薬剤師や薬学に対する熱意が感じられました。
- 他学部の学生さんたちがどのようなことを考えたり、学んでいるのかを知ることができた。(自分ももっと薬学について考えようと思った。)地域や、大学間で、学ぶ方向性や、授業内容などに違いがあったので、もっと知りたいと思った。
- どの学生も自分の中で問題意識をもっていて、その問題について発言していた。どの学生もよく理解していたと思う。
- なかなか日常では言葉にしないことを改めて言葉にすることで、薬剤師の役割を再認識できた。“教育”がいかに大事か分かり、今後は教育を受ける立場から指導する側に自分が立つことを実感できた。
- 今まで身につけた技能や知識を、今後どのように生かすことが出来るのか考えることが出来た。
- 学校により、学んでいることが少しちがう、学び方がちがうことが分かった。地域差によることも、理解できた。でも、やはりもっと学びたかったこと、よく学べたことに共

通点があり、薬学教育コアカリキュラムの統一性を感じることができた。

- いろんな地域の学生が薬学教育に関して考えていることを聞くことができて、6年間のふり返りができた。
- 自分は考えていなかったこと(教育・災害など)について深く考えている学生がいて非常に勉強になった。
- 大学によって授業内容などが違っていて、それぞれ特徴的な授業をしていて色んな体験談を聞くことができて良かったです。6年間の薬学教育の多様性について知りました。
- 薬剤師として何が大切なのか改めて実感することができました。普段聞くことのない貴重な意見を聞くことができいろんな視野、考え方が広がった気がします。
- 各大学のカリキュラムや実務実習内容(大まかな)あまり違いのなかったところや、差があると感じたところがあった。
- 学生各々が身につけられたこと、できなかったことを抱えていることが理解できた。よりよい授業、実習にたいする思いがあることが分かった。
- ディスカッションは苦手でしたが、方法を工夫することで積極的に取り組めることが分かりました。
- 薬学教育の改善を目的としたWSであることが十分に理解できました。
- 大学のカリキュラムの差。(KJ法を使いこなしている人、発表になれている人がいること)熱い思いをもった薬剤師の学生がいること。
- 教育現場と臨床現場の違い。薬局が臨床と教育の現場であること。
- 薬剤師の役割や職域の広さを理解することができた。
- 全国の薬学教育が一定ではないこと。
- 各大学との違いが何か。どういうことが役立つかなど。
- SGDで他大学の方と話すことで、大学ごとの取り組みや力を入れていることが異なりおもしろかったです。また、これを大学にもってかえり、伝え変えていかなければならないと思いました。
- 大学によって、6年制薬学教育の内容はかなり異なっていると感じた。
- 国立大、私立大、短科大、総合大学の違い。
- ワールドカフェやKJ法といった話し合いの方法を学びました。薬剤師としての在り方や薬学教育について考えをもつことが大切であると思いました。
- 国立と私立、総合大と薬科大など様々な大学の話が聞けて、他大学の動向がよくわかった。
- 役割分担は大事。様々な考えがあり、1つ1つを調和する大切さを学びました。
- 自分が薬学部6年間で満足したこと、できなかったことを理解できた。
- 話し合いをスムーズに行えるように積極的に参加したこと。他の人には無いアイディアを出そうと努力した。
- 6年制の薬学教育において、OTCや災害、実習内容に物足りなさを感じている人が多いとわかった。
- 大学間、個人での教育、実習の内容の差(良し悪し共に)。薬学教育で足りなかったこと。
- 薬学教育を受ける中で、根底にある患者さんへの思いが重要であると思いました。
- 各大学で感じている6年制薬学教育の現状をディスカッションすることでよく理解できた。
- 薬学教育に関してみんな同じような考えを持っていたこと。教育者側もどう教育すべきか懸命に考えていること。
- 各大学が行っている授業の内容が違うこと。皆で話し合うことで様々な意見を聞くことができた。薬学教育に必要な内容。

- 薬学教育が進化してきたこと、また今後改善すべき点があることについて学ぶことができました。また教育の大切さについて理解することができました。
- 今まで薬学教育について考える機会がなかったので、色々な人の意見を聞くことができた良い経験となりました。薬学教育を考えることが、今後の後輩たちのより良い教育につながるということが分かりました。
- 今まで、足りなかった事について考える事がなかったので、今回、SGD で具体的に抽出できて良かったです。特に統計、英語、フィジカルアセスメントが必要だと感じました。
- 第二部の Section I, II ともに、個々人がもつ意識や課題のちがいがわかって面白かったです。
- トレーニングレポートをどのように活用するのか。
- グループのメンバーが6年間の薬学教育で学んだことや足りなかったことについて共有できて有意義でした。
- 教育と現場には差があり、その認知は皆あった。チームに恵まれ、満足以上のものがあった。
- 全国の薬学生はよく考えているな ということが分かった。

6. 今日、あまり理解できなかったことは何でしたか。

- 今足りないもの、これから求められるものを具体的にイメージできなかったです。
- 薬学教育の全体像(今まで習っていたが忘れていた部分など)がみえなかった。もう一度見返したかった。
- 教育とは教わるものなのか、培うものなのか
- 現状できていないことをいかにすればできるようになるのか (SGD で話し合った内容については理解が深まったので、それ以外について)
- 今後の進路の違いに応じた、薬剤師としての展望。
- 実際の医療現場での教育不足な点は理解できたが、その改善策をもっと考える必要があると感じた→卒後教育
- チーム医療についての全員の考え方。
- 他学との教育の違いを踏まえた討論 (理解できなかったことの主旨からは外れて申し訳ありません)。
- 嶋田さんの話が、時間が短すぎたせいか、提示された2つのことが優先して大切なことになったのか、分かりませんでした。
- 報告書の書き方。
- 時間が短いため、上手くまとまらなかった。
- 理解できなかったわけではないが、短い時間の中で意見を出しまとめるのは難しかった。
- 初めて会った方々と SGD を行う上で、どのように行うことが一番良いのかという部分。
- 他大学の方がいらっしゃる上で、どうすれば良い話し合いが出来るかなかなか理解できなかった。
- 薬剤師が必要となるスキルについて。難しいところもあった。例えば、ビジネスについてなど。
- 薬学教育に足りなかった要素についてもっと議論を深堀したかった。
- もっと話し合いに積極的に参加できればもっと全体のことを理解できたと思います。
- 話すことが苦手なので、意見を出すことが他の人に比べて少なかったと感じました。
- 第2部セクション1の実施意図がくみ取れず、まとめ方に苦労した。
- 6年間で受けたかったプログラムと、その具体例についての SGD がどこまで現実的に考えるべきかわからなかった。

- KJ 法でなぜあのように上手くまとまっていくのかということ。
- しいて言うなら、医療地域差や偏在など今言われている地域医療に関しての話し合いもできればと思いました。
- 6 年制教育を受けた人のみでの話し合いだったので、4 年制から 6 年制に変わってどうかは、あまり実感できなかった。
- 薬剤師として働いていく上で、今何が必要なのか（様々な意見があって）自分の中でまとまらなかったように思います。
- 患者さんと直接接する薬局・病院薬剤師の業務は分かったが、企業などの働き方も知っていた。
- 自分達で授業を考える難しさを感じた。
- 6 年間でできなかったことについて、みんなで意見をまとめるのがむずかしく、一人一人ですべての時間を共有できたと思う。
- 時間が tight だったので十分な議論ができたのかわからなかった。
- 嶋田さんの一番伝えたかったことを嶋田さん自身はどのように行っているのか、方法論も聞きたかったです。
- 嶋田さんの話がもっと聞きたい。
- 行政分野についての話をもっと聞きたかった。
- 「どのようにすれば薬学教育を根本から変えられるのか」
- カリキュラム内容についてどこまで追求できるのか。
- 教育側が学生側に何を求めているか（知識・技能・意識などどうなってほしいか）少々曖昧だと感じている。
- コアカリキュラムの内容がそもそも分からなく、大学で行っている内容が正しいのかどうか分からない。
- 話し合いの中で、自分の意見を言うタイミングなど難しく、あまり積極的に参加できませんでした。
- 教員の方々が今の薬学教育をどう考えているのかがわからなかった。
- 他の人の意見をさらに引き出す努力、発表者の原稿と一緒に考えること（それを望んでいるかわからなかったです）
- 身についたことについては、本当に身につけているのか、その気になっているだけなのかは理解できなかった。
- 研究に進む人がいたが、大体が薬局・病院勤務になるので、少し偏りがあったかも。
- グループによって成果（学習の到達度）を重要視していたので、私には無い視点であり、新鮮でした。
- KJ 法は初めてだったため、最初は理解できていなかったがやることで理解できた。
- 教育で改善点を多く挙げたが、できることは限られており、優先して変えるべきことは何か、自分の中でまだ明確でない。
- 今後どのように教育が改善されていくべきなのか、優先事項は何なのかについてまだ意見をまとめられていないです。
- 特になかったです。初めて考えることが多かったので難しかったです。
- 薬学教育について気になりました。今後どのようなビジョンで指導者、学生に教育しているのかについて知りたいです。
- 処方箋のリフィル制度
- 授業の提示（アイデア）は解決、実用性を考えていないものが見受けられて、現実味がなかったものもあった。
- 勉強不足で、同じ学生でも考え方、話している内容にわからないことがあった。

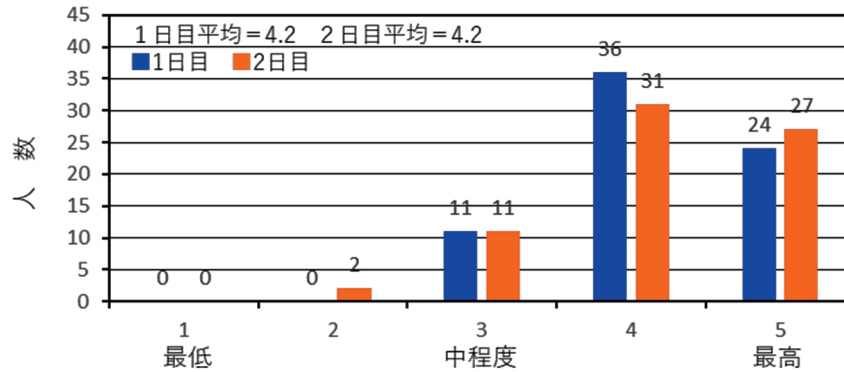
7. その他のご意見（ご自由にお書き下さい）

- 普段、生活しているうえでの自分のコミュニティのせまさ、知らないことの多さを少し知れました。
- 同い年の他大学の方々の考えや将来像が聞けておもしろかった。大学間におけるちがいが多いことが分かった。
- どの程度ここでの討論が6年制薬学教育にフィードバックされるのか
- 休憩が入ってくれたのはよかったです。
- とても楽しく話し合うことができて良かったです。
- 現場の先輩方のお話が聞けて良かった。
- 大学で行ったことがないレベルの討論で、非常に楽しく感じました。
- 各タスクの時間が短いと思いました。
- 他大学との意見を交換でき楽しかったです。残り半日も楽しみたい。
- 新鮮な気持ちで、改めて、薬学生としての自分の立場を考えることができました。
- 他学の学生さん(6年生)と交流し、新しい発見などを行うことができて、貴重な経験となりました。
- 6年制が薬剤師(病院や薬局)をメインとしている前提であることを考慮するとしても、学べなかったことについて既に確立されている「薬剤師としての資質」を最初からベースとして議論しなくてはならなかった点については、いかななものかと思う(バイアスがかかってしまうため)
- みんなの話がハイレベルすぎて自分がついていくことができなかった。でも、色々な意見を聞くことができたのでとてもいい経験でした。
- 他のグループとの議論の時間がもっとあれば！と思いました。また、この回でまとめたことがどのようにPDCAサイクルに組み込まれていくのか分かるととても嬉しいです。
- 参加できてよかったと思う。発言もしていきたい。
- 勉強もがんばって自己向上に努めたいと一層思えました！
- パワポを作成する際の時間がもう少しあったら、より深い内容を考えることができた気がします。
- 大学によって差があること思っていたが、予想よりはそのギャップが小さかったと思った。
- 討論の時間がみじかいかと思ったが、ちょうど良かった。次々とテーマが変わることで、中だるみすることなく、考えを出し合えたと思う。
- KJ法を大学でやってみたいです。
- 大学でこのような活動(SGDや発表)を多くやってきたが、ここまでスムーズにできたのは初めてだった。どの学生もレベルが高いと感じた。
- 3人の卒業生のお話は非常に良かったので、続けて欲しい。
- 参加者が全員明確な目的を持っていることが伝わり、とても尊敬できた。
- とても勉強になりました。
- 説明があって、すぐ討論だったので、自分の意見を上手く伝えるのが難しいと感じました。
- 他大学の同じ薬学生とこのように集まるのは初めてだったのでとても良い機会でした。
- こういう風に意見交換する機会は普段ないのでとても刺激を受けました。
- 他のグループ(他の2つのP)でどのような議論があったのか気になる。
- 全国の同期と話す機会はとても楽しいです！
- 多数の方から多様な意見を聞くことができ、貴重な経験をすることができた。
- このような会が現状を改善してゆくのだと感じた。

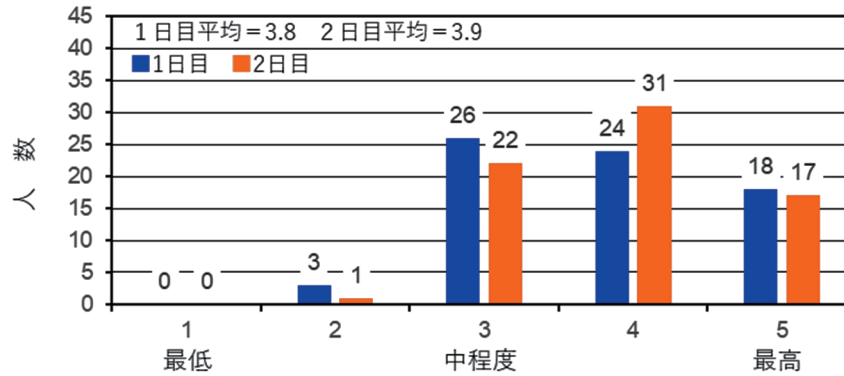
- このような機会を増やして頂きたい。
- KJ 法や World café も取り組んだことがなかったので勉強になりました。
- 身につけた事、やっておきたかった事等、多くの人の意見が聞けて良かった。実習施設間の差が酷いので、それについての話をしたかった。
- タスク・フォースの方がていねいにサポートしてくださり助かりました。
- 会場の運営的に厳しいかもしれませんが、全体会場に机がほしかったです。
- 時間がタイトでした。
- 私はⅢ群なのですが、Ⅰ、Ⅱ群の発表も今日の時点で聞きたかったです。
- 1 日目とても楽しく、そして今後に生きる内容でした。明日も楽しみにしています！
- パワーポイントを使った発表方はよかったです。第二部のセッションⅡが面白かったです。
- 本日はありがとうございました。大変貴重な経験をさせていただいています。明日もよろしくお願いします。
- 作業と目的が明確で、各 section やりやすかったです。
- 初めて会う人ばかりなのに、すぐに話せるようになったので、ワールドカフェ方式は適切だったのだと実感しました。
- もう少し自由に話したい？努力します。
- クーラーの温度を上げてほしいです。

第2日目の評価

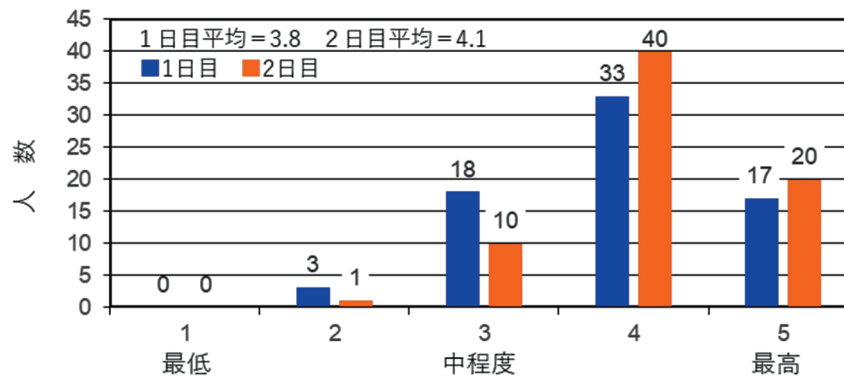
1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込みましたか。



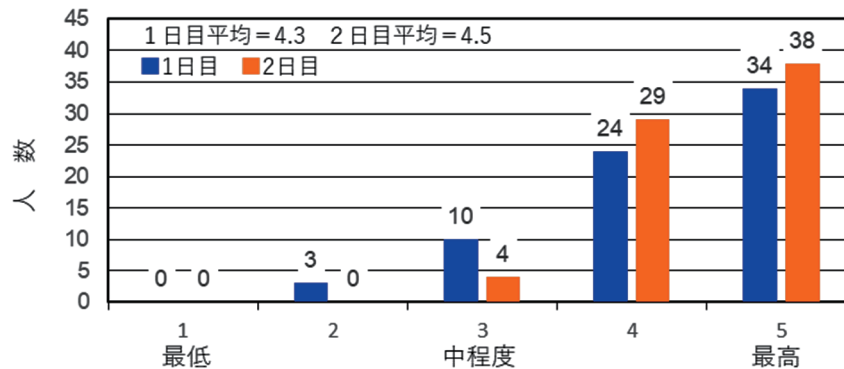
2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



3. 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



4. 今日のタスクフォースの仕事は良かったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか。

- 10年後の未来像は、個人によって目指すことがちがってるということ。共通している部分は常に研鑽し、患者さんに還元する薬剤師でありたいということ。
- 薬剤師としての未来の将来像は人それぞれで、多くの学生が患者さんのために責任を持って考えていることを再認識できた。
- 大学では、意識づけが大切であること。現場に出てからのことを見通して考えること。
- 薬剤師の将来像と社会情勢との関わり。薬学教育は大学の6年間のみではないということ。
- 薬剤師の意識改革
- 薬剤師のあり方の多様性
- 意外と制度単位での変革を考えている人が多い。
- 今回の参加者それぞれに将来像があったが「患者さんのために」という思いは同じだということが分かった。
- 10年後の目指す像は、職種によっても異なり、同じ職種でも違うということが分かりました。しかし、医療の発展や患者への貢献といった根本部分は同じなのだと感じました。
- 今後の薬剤師に求められること、必要なことを具体的に知れた。
- 多くの人が「積極的に行動をしなければ」と考えていることが分かりました。
- 薬剤師とは…。ドクターと看護師、薬剤師との医療に対する考え方、医療人としてやっていけないといけないこと。
- ALL 薬剤師としてここに来ているメンバーが今後どのように考えているのか、今の問題点についてどのように考えているのか分かりました。
- 志を同じくする者と議論できることの楽しさ。発信力のなさに対する問題意識。どうしたい？を行動に移さなければならないこと。
- 患者を診るという意識、システムは在るものではなくつくるもの。
- 3、5年後、10年後など未来を想像しながら行動しなければ、他の人より遅れをとると感じたこと。できる人はすでに準備を始めている。
- チームで仕事をする際に、タスクに対して、どう取り組むか？自分の意見・アイディアは何の目的があるか？を考えることが大切であること。薬剤師としての覚悟。
- 薬剤師としての使命と経営的視点の関係。
- 薬学生各個人が様々な思いを持って将来を描いていること。
- これからの薬剤師に必要とされること。
- 薬剤師としての将来性、具体的に10年後を書くことで自分の中でも整理することができた。
- 薬剤師として自ら調剤あるいは販売した薬、医薬部外品等に対して責任を持つ必要があること。
- 10年後の社会のニーズに適応することも重要ですが、AI やシステムを能動的に変えていくという視点も大切だと感じました。
- 今から将来に向けて、薬剤師として出来ることは最大限していかないといけないこと、ガイドライン等にしばられてはいけない、患者さんを見なければならないこと、生涯学習と大学との関わり。
- 研究・企業・MR・卸・薬局・病院の皆の思いが聴けた。
- 薬剤師が担っていく仕事について、薬の専門性を生かして薬剤師にしか出来ないことをする。
- 医療の現状と、それをふまえたこれからの薬剤師の医療への介入の仕方を学ぶことができました。

- 10年後、未来の薬剤師像。AIに使われない、活用するという。生涯研鑽。
- 薬局薬剤師の現状とこれから。私達が変わらなければならないこと
- 個々に目標が明確であり、10年後までにどのように行動すべきか皆が把握していた。
- 薬剤師と他職種との意識の差や今後薬剤師になるにあたり意識していかなければならない点について理解できました。
- 紀平先生の話がとても分かりやすかったです。薬剤師の「仕事」について改めて考えさせられるきっかけになりました。
- 今後の薬剤師に求められることで、薬剤師の意識を変えていかなければならないこと。
- 紀平先生のご講演が印象に残りました。
- 薬剤師は現状のままでは淘汰されてしまうという危機感を今一度感じ、能動的に職能を開拓していかなければならないと痛感した。
- 業務をいかにするべきかということ。それに対する意識の持ち方、モチベーション。
- 薬剤師の多くが手段と目的をはき違えていること。健康のために従事することを大切にしていきたいです。
- 薬剤師の行うべき仕事、姿を理解することができました。
- 高齢化が進むと、高齢者の医療を支えることが難しくなるということ。
- 10年後のイメージに向けて、今何をすればいいのか。
- 国が薬剤師に求めていること、現在の薬剤師の問題点
- 将来やりたいことは意外と似ていることだったので安心できた。これまでの6年間の経験には大きな開きを感じたが、どんな人でも将来となるとうーんとなるのがかわいい。
- 薬ではなく患者を見ることの重要性、研究の大切さ
- 10年後の薬剤師に求められることについて、理解できた。
- 手段ではなく目的にフォーカスを当てアクションを起こす。求められる薬剤師について。将来について、受動的にではなく能動的に！！
- 薬剤師になってからどうあるべきか。
- 10年後のAI普及とは裏はらで、薬剤師に求められる素質を理解できました。
- 薬剤師が将来的にあるべき姿は、人それぞれ違うものを描いているのだということ。一方で、それらはいずれも共感できるものだということ。
- 自分が思っている問題点を皆も思っていて、また、その問題点が今後のPDCAサイクルに本当にくみこまれてゆくということが分かった。薬剤師は受け身であってはならないことも痛感した。
- 今後の薬剤師に必要なことは、主体的に行動し、発言し、動いていく、啓発していくことで社会貢献につなげることだということがよく分かった。
- 各自将来の目標がある中で、それをすり合わせる難しさを感じた。現場の薬局の問題点と、それを変えていく立場にあることを理解した。
- 働くフィールドは違っても抱えている想いは似ているのだということを知ることができました。
- 現在の医療の問題と薬剤師が取り組むこと。
- 薬価改定の意義について。薬局薬剤師の業務と経営について。
- 薬剤師の将来を考えたときに、自分たちが受け身の考え方をしているということ、積極的な姿勢が必要なのだと思った。
- これからの薬剤師のあり方について。
- 薬剤師はやはり生涯学習しなければならないこと、患者の命や健康な生活に対して責任を持つ必要があること。

- 薬剤師が今のままの形で働き続けられることはもう難しく、変わっていかなくてはいけないということがわかった。
- これからの薬剤師に求められていること。今後、自分がしていくべきことを具体的にイメージできた。
- 受け身になってはいけない、生涯考え続けなければならないということ。学生の数だけ将来のプラン、夢がある。とても参考になった。今後（現在）の薬学界、現場を変えるのは自分たちだということ。
- 薬剤師として持たなければならない意識
- 都会の人の田舎のイメージが、現実とはかけはなれていること。役人の方々がどのようなことを薬剤師に求めているのか。
- 受動ではなく、能動的に動くことの大切さ、その意識
- 薬剤師が患者（国民）の健康に貢献するという意識で働くのが大切だということ。
- 薬剤師としての仕事は“人 対 人”に比重をおくべきだと改めて思いました。いくら薬の知識があっても患者さんのことをしっかり見ることができないと適切な医療を提供することはできないと思いました。
- 薬剤師が他の医療人と比べて意識が低いということ。
- PMDA 紀平氏の話がとても勉強になった。
- 現在の薬局の危機（今のままではいけない）。薬剤師の意識を向上させることの必要性。
- 他の医療職種と薬剤師の意識の違いを実感した。

6. 今日、あまり理解できなかったことは何でしたか。

- 目指す方向性がちがう中でも、どのように連携していくことができるかについて、話を深めたかった。
- 薬剤師には、臨床現場で働く病院、薬局薬剤師以外にも大学院への進学や企業など様々な進路があるが、そのすべての薬薬連携の仕方についてもっと理解を深める必要があると感じた。
- グループのテンポについていけてるか最後まで不安でしかたなかった。
- 人口減少、少子高齢化、医療費、社会保障費の増大の中で、具体的に薬剤師ができること。
- 薬学生「以外」への薬剤師の啓もう活動はどうなっているのか。
- 地域制（都市部以外）での薬局が今後何を求められているのか？学生の意見があまり聞けなかった。
- 時間がなくてあまり深くみんなの将来像を聞けなかった。
- 今後、社会は変わっていくと思われるが、その想定と異なった場合対応が難しいと感じました。
- 急性期病院が減るとされているが、どのように減らされるのか。
- 十年後の将来について、今でいっぱいいっばいで、十年後となると遠い先のように考えてしまい、難しく感じました。
- 10年後の明確なビジョン。
- 研究力が大事と言いながら、現状の6年制コースではその能力が育てられているかは疑問。
- 今日というか、今までの教育の中で、薬局に出ている薬剤師が臨床研究を行う際に、どのような手順を踏んでいるか、あまり知らないで学びたいと思いました。
- 結局今回学生が話し合ったことがどのように今後活かされるのか、その展望について。
- 教育のレベルを上げるための、これからの制度・システムの変化。

- 薬剤師としてどうあるべきか、将来のイメージを実現するためにどうすればよいか、具体的なイメージをすることができず、どういうふうになりたいのか、到達目標は何なのかを意識する必要があると感じた。
- 薬局薬剤師のもうけの話、経済政策などは難しかったです。
- 薬局実習で、・門前の病院の薬剤部と交流（薬薬連携）がなかった。・服薬指導を数回しかできず、患者とほとんど接しなかった。・SOAP を書いていないことがあり、薬局の抱える問題や現状がわからず、ワークショップについていけなかった。
- “薬剤師にしかできない”と断言できる仕事は何かというのは今後も考えていくべき課題だと思いました。
- 薬剤師は必要ないということ。
- 「変化」がキーワードであるとは理解しているが、その変化の現場が本当のリアルのものと考えられていない自分がいると思った。具体的に薬剤師の変化を実体験として何か見て、感じて実感したい。
- AI の現実性、そして薬剤師との共生を深く考えていない発表もあった。エビデンスがあって初めて討論として成り立つのであって、「夢、こうなれば良い」などはまた焦点が違うのではないかと、私も受動的な方が多いなと思った。
- 病院の制度については以前勉強していましたが、薬局についてまだ知識が足りないことが分かったので勉強していきたいです。
- 第三部のテーマでワークショップ側が求めている答えが良くわからなかった。
- AI が急成長していく中で、その AI を薬剤師が扱えるようにならないが、どのようにという具体的なことがあまり理解できなかった。
- 「AI の導入に伴って対人業務に専念する」みたいな発言・発表が学生からあり、そんな安直なものか？とは思いました。
- 医療（社会保障費）のこと。薬剤師だけでなく、軽症でも病院に行ってしまうことと合わせてお話を聞きたかったと思いました。
- 薬局薬剤師とドラッグストアの垣根について。
- 行える事、行ってはいけない事の間にあることの裁量の自信の持ち方。
- 10 年後の薬剤師について、どんなことが変わるのかあまり考えを深められなかった。
- 大学での教育が変わった後、学生がついていけなかった場合その後の対応はどうすればいいのか。
- 薬局チェーンの現状に対して今後の方針をもう少し具体的に聞きたかった。
- 将来の薬剤師に必要なとなるスキル・知識。今後の医療業界の動向。
- 調剤報酬や人員等、薬局の経営と薬剤師の責務（職務）の両立が難しいと思いました。
- AI に関しては想像にゆだねられる面が多く、意見をまとめるのが難しかった。
- AI の進歩・現状。
- 今後の教育、卒後教育について。システムを導入するのではなく、作っていくにはどうするか…自分も考えていこうと思う。
- 海外の薬剤師に遅れをとっている（予防接種ができる、診断等）がいわれる中で、それと並ぶ医療を行うには、薬学の学生の学習カリキュラムが全く異なることも問題と思う。もちろん、ホケンの体勢等も異なるが全体的に海外と比較した薬学教育については何か考えていращやるのか。
- 今後自分が現場に出てから、どうやって今日不足していると感じた点を補っていくのか。
- 変化していく社会の中で、私たちがこれからできることは何なのか、考えていかなければいけないと思いました。
- 5 年後や 10 年後の自分の将来のイメージについて。

- 薬局叩きがあって、薬剤師としての収入が減った時、どのように生活をすればいいのか、転職が無難なのか。
- 取り組むべき課題やその多さについてはわかったが、教育や制度が具体的にどうなっていけばいいかはイメージしづらかった。
- 私達の認識と実際の現場の現状とのズレ。
- 都会の薬剤師のビジョン。
- 薬局が点数付けたところじゃないと、その方向の仕事をしていない、この環境を打開するための解決方法がもっと知りたい、というか議論したかった。
- 将来像を考える上で、上手くイメージができなかった。思い描いているイメージが幅広すぎて、具体化が難しかった。
- AIについてどのように活用していけば薬剤師としての職能を発揮できるのか。
- 地域ごとの医療のあり方、薬剤師のあり方。

7. その他のご意見（ご自由にお書き下さい）

- 皆が既に10年後の目標、未来像がイメージできていることにすごく驚いた。良い刺激をもらえました。
- 人前で発表させていただける機会をいただいた折、タスクフォースの先生方に評価をいただけたことに感謝したいです。ありがとうございました。
- なぜ医師や看護師に比較して、薬剤師はここまで患者ファーストでない考えが浸透してしまい、今もそれがはびこり続けているのでしょうか…？
- 私見になりますが、今の社会では「薬剤師＝調剤マシン」に近いイメージしか定着せず、それを想定して入学した薬学生はその後にもそのように働きがちだと思います。故に小学～高までに「薬剤師が仕事をする目的」を（遅くともオープンキャンパスで）啓もうする必要があると思いました。
- キャリアの積み方についてもっと知りたかった。
- いろんな形で患者様貢献があり、自分の将来像を具体化するのに役立つと思った。
- 紀平さんの話は、とても共感するところがあって、意識を変えていかないといけないと改めて思った。
- 行政側の先生方の話を聞くことができ、薬剤師側の視点だけでなく、他の視点も知ることができ、勉強になりました。
- 一生に一度しかない機会であるにもかかわらず、時間がないから質問を切るといえるのでしょうか。
- これからの薬剤師として働く時の意識や覚悟について再認識できてよかった。
- 現在働いていらっしゃる50、60代の薬剤師の先生方の意識を、私たち6年制卒者が変えていかねばなりません、難しいことだと感じました。
- 多くの方々と知り合うことができた最高の2日間でした。ありがとうございました。
- 2日間を通し、薬学教育や今後の薬剤師、自分の将来について考える大変貴重な機会となりました。誠にありがとうございました。
- 立場の高い方々と交流する貴重な機会を頂きありがとうございました。
- 今日の話を忘れずに、医療人として患者を治すことを目標にしていきたい。
- あるチェーンの偉い人が「企業にして良いと国が言ったから利益を追求することの何が悪いんだ」と言っていたことを思い出した。
- 今日のテーマでは個々の意見を1つにまとめるのが大変だった。近い未来の話をするのは容易だが、10年後、20年後の薬剤師の在り方、社会情勢を語るのは難しかった。し

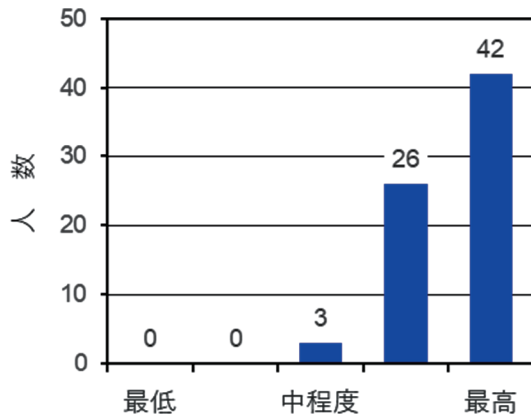
かし、今日の SGD を通じて改めて日本の薬学、医療界を考えるきっかけとなった。自分ができることをもっと探したいと思う。

- もっと頑張らないといけないと思いました。
- 他の大学の様々な地域のパターンを活かした考えを感じることができました。
- 時間がタイトでした。
- 薬剤師がこれから何をやっていくべきかが垣間見えた。そこに、独自性をもって能動的に取り組んでいきたい。
- 国の制度を変えたい、現場の意見を反映してほしい、というとき、どう発信していけばよいか具体的に知りたいです。
- 10年後の薬剤師の働き方について、SGD の結果を振り返ってみると確かに受け身になってしまっている部分があった。今の薬剤師らしい仕事にしばられずに広くやれることを見出すようにしたい。
- 紀平さんに。今後薬剤師がリフィル処方や予防接種などを行う可能性はありますか？
- SGD の時間や質問の時間をもう少し増やしてほしい。
- 2日目と言うこともあり、メンバー同士が打ち解けあえたので活発に SGD しやすかった。
- 紀平さんの講演はものすごく心打たれるものでした。自分の考えをより良くする本当に良い機会になりました。
- 地方の人と都会の人とグループを分けて 10 年後の討議ができれば、もっと現実的なイメージが共有できたのかなと思いました。地方と都会を分けることによって、都会ではこんなふうに思っているんだとか、地方の現実についてもっと理解してもらえたかなと思います。なかなか時間がなかったのでもっと伝えられることがあったのかなと思ったのと同時に、自分の力不足を感じました。
- 教育の大切さを痛感した。今まで進路に教育にかかわる仕事は挙げてこなかったが、今回意識し始めた。キッカケを下さりありがとうございました。
- 貴重なお話をいくつも伺うことができとてもよかった。今後勉強していく上でもモチベーションが上がった

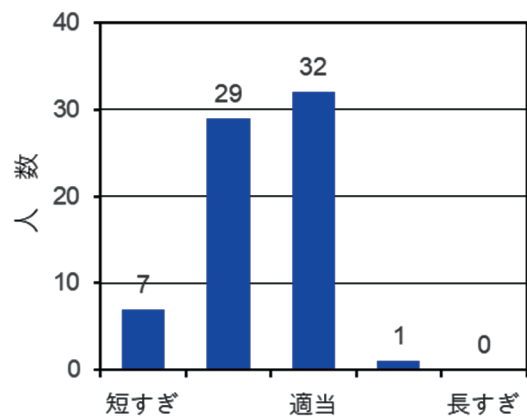
ワークショップの総合評価

1. 今回のワークショップを全体的に評価して下さい

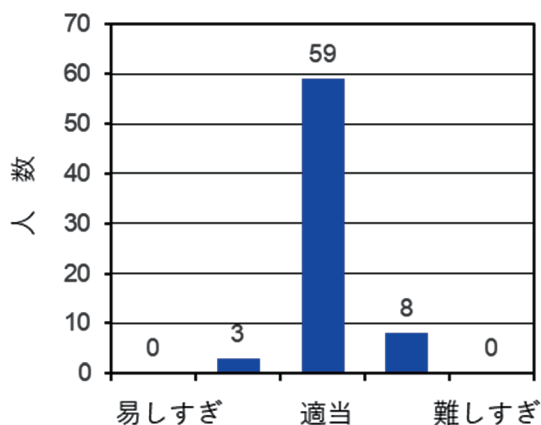
1) 内容の価値について



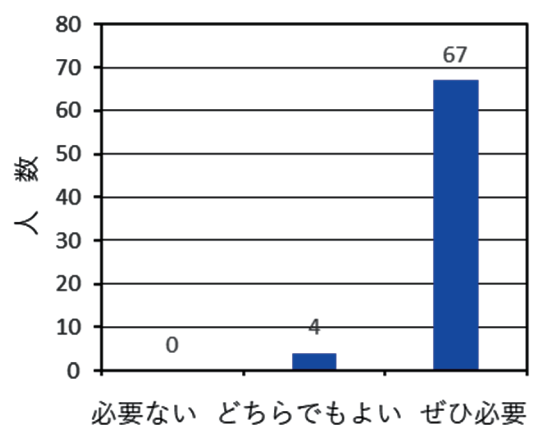
2) 内容に対する時間について



3) 内容の難易度について



4) このようなワークショップを継続することについて



2. 今回のワークショップでよかったと思われることをお書きください。

- 同じ学年の人の意見を聞くことができ、そこから、話し合うことで新しい発見や見方をすることができ、とても意識の幅が広がりました。
- 志の高い方がとても多く、人生へのいい刺激になりました。
- 各都道府県の意見が聞けた。よって視野が広がった。
- 今後の教育のためだけでなく、今の自分や医療を取り巻く環境、今後何をすべきかという点に関しても深く考えることができた。
- 他大学、色々な人の話を聞く中で、違う価値観にふれることができたことは、自分の視野の広がりにつながったと思います。
- 他大学の薬学生と交流できた。薬剤師の将来像、自分の将来を想像できた。
- 大学によって受けてきた教育が同じでもその人によって“薬剤師”像の考え方が異なることを知ることができた。

- 少人数制から少し人数を増やしての討論の形態で、グループ内で意見を出しあい、短時間でまとめるという中で、たくさん意見が出てきていたこと。
- 学生同士での話し合いによって、薬剤師としてあるべき姿を考える良い機会になったと同時に、今活躍されている先輩方の貴重な意見が聞けて良かった。
- 他の大学の学生と意見交換することができたこと。何が習得できていて、何が6年間でできていなかったのか意識できたこと。普段考えることのない薬学教育について考えることができたこと
- 様々な大学の学生と議論する中で、自身の経験が他の学生と全く異なっていたこと、また、逆に他の学生の経験の中で、非常に興味深い知見が得られたこと。
- 他大学の、全く異なる環境で培われた薬剤師、薬学への理想や概念等を知ることが出来、自分自身の視野を広げることができた。
- 薬学会会頭や文科省、厚労省の方の話を聞いたこと。自分が大きく成長できた点。
- 他大学との交流。将来の薬剤師像が皆様々で非常に興味深かった。未来の医療を担う人材になりたいと思った。
- 社会が必要としている薬剤師の像をイメージすることができた。
- 今まで他大学の人と関わる機会がなかったので、様々な話をして、自分にはない考え方などを共有することができた。自分が思っていることを改めて考え直すことができた。
- 全国の普段交わることがない薬学部の方と話をすることで、大学の特徴がかなり違うことが知れて良かった。
- 自身の大学や他の大学の特徴を知ることができた。自分にはない考えを持っている人の話を聞いた。他大学の人たちを知ることができた。
- 他大学との情報共有ができた。新たな発見、色々な考え方を知る・見ることができた。
- 様々な場所で学んできた薬学部同期の仲間に出会え、お互いに刺激し合えたこと。
- 自分の大学にはいないような人材との交流。熱い思いを持った諸先輩方と出会えたこと。お役所と思っていた官庁の方々の考え・熱意に触れられたこと。
- 自分達が実際に考えている問題を共有し合えること、また、意見を聞いて頂けることが良かった。
- 大学を出て社会に出る直前の同期と話せたこと。
- あと半年で現場に出る身として、薬剤師としての覚悟を再度実感することが出来た。厚労省や PMDA と行った現在の薬にまつわる環境の問題点を知る人達からの話を聞くことができた。自分の大学という狭い世界しか知らなかったもので、全国の薬学部について知れた。
- 沢山の学生と接することで、自分の認識との違いに気づいたり、改めて気づくこと、新しい発見も多くあり、貴重な経験でした。今後の薬剤師像や、将来何をしていかなければならないのか、またそれはどのような貢献につながるのかを考えることができた。
- SGD の人数が多すぎず、少なすぎず、良かった。様々な手法を用いて討論できた（KJ法、ワールドカフェ etc）
- 普通なら絶対に会うことのなかった全国の同期生に出会え、真剣に話し合いができたこと。熱い思いを聞くことができたこと。
- 他学の人との交流や、卒業生の方々と深い話ができたこと。
- 厚労省、様々な大学の教員の方、と、バックグラウンドが異なる方と様々なお話ができ、discussion でき、自分の視野の狭さ、もっと大きな夢を追いかけ、それを実現するために計画を段階的に立てることの重要性を理解することができた。
- 自分の考えもしっかり言える状態が整っていたこと。だから他の人の意見も真剣に聞けたし、勉強になった。

- 参加者の意見が薬学界に影響するという。他大学の同志と交流できること、高いレベルでの意見を聞き、自分の考えをより深めることができること。行政の方々の話を伺うことができること。
- 教育という視点から考えることがなかったので、視野が広がった気がします。自分には何が足りないのか、これからどういう気持ちをもって薬剤師として働いていけばいいのか、様々なことを考えることができました。
- 環境の異なる多くの大学の薬学生で討論し、交流を深められたこと。よりよい教育について考え、他の人の意見も聞けたこと。
- 向上心と積極性のある他の薬学生と接し、多面的な視点を学ぶことができた。今回の体験を生かして社会貢献したい。また、常に患者さんのことを考える人間でありたい。
- 同じ大学の友人に自分の思いを語るには抵抗があったり熱量が違ったりすると話し合いがなかなか上手くいかないが、参加者みんな熱い思いがあり患者さんのために自分ができることを考えていたのが良かった。
- どの学生も問題意識を持っていることが非常に良かった。
- 他大学の方々と意見を交わすことができとても勉強になりました。
- 全国の学生と話せてとても楽しかった！
- 全国薬科大が集まって、大学の講義や将来の薬剤師像について議論できたこと。
- 全国の薬学生と情報を交換することができたのでよかった。また、様々な考え方を知ることができたので、自分の見識が広がったように思う。
- 今後の日本の医療について先生方からご教授いただき、今後の医療を担う私達の良い刺激となる会となりました。
- 他大でどのような教育を受けているのか、薬剤師への認識を共有できたのは良かったと思います。
- 多種多様な考えを聞くことができ、勉強になった。
- 様々な目標や希望を持つ人とお話して、薬剤師としてのあり方や、今後の目標にまた新しい視点が加わった。
- 他大学の仲間、行政の方々、先輩方と意見を共有できたこと。
- 内容も充実しており、メンバーもよく発言して、今までで一番力の付いたWSと思う。アイスブレイクからの導入、ラストまでの流れも話しやすかった。
- 他大学の、将来をしっかりと考え、しっかりと軸を持つ人と関われ、意見を共有したりできたことが、本当に勉強になった。とても勉強になったし、これから自分の意見を発信していくことをもっと真剣にやりたいと思った。薬学の未来をこんなにも真剣に考えている人の存在を知れ、私もその一員になりたいと思う。
- 様々な大学の同じ状況下の学生と意見を交換できたこと。私大の学生と交わる機会はとても少ないため、刺激的だった。
- 薬剤師という職能について考え、見識を深めることができました。
- 他大学の人達と交流し、様々な価値観を共有できたこと。
- 普段から見知っている人以外と討論することで、今まででは気づけなかったと思われる思考・視点を知ることができた。
- 多種多様な考え方を持つ同期と出会えたこと、来年から自分が働くことに関してポジティブに努力しようと思いました。
- 厚労省、文科省などの方から話を聞けたこと。
- タスクフォースの皆さんのサポート、話し合いや討議の進め方。
- 他学生の意見・考え方を聞くことで、自分自身の考え方が変えられたこと。
- 他大学の学生と刺激し合えたこと。SGDをする自信が少しついた。

- 他の私大、国公立6年制の話を聞くことができた。将来の展望が色々あり、刺激になった。
- 考え方、話し合いの仕方を全国の学生はどのように行っている（きた）のかを学べた。
- 多くの同級生と交流を通すことで将来の薬剤師像、また、今の学生生活への刺激になった。
- 他の学校の人と意見を交わすことができたのでとても良い経験となりました。また、自分の理想の薬剤師像等について、熱く語る機会は学校生活ではほとんどないので、とても良かったです。
- 他大学との意見交換の時間を多めに取って頂け、刺激をたくさん頂けた。また、モチベーションの向上につながった。
- 他大学の学生の意見を聞くことができた点。
- 他大学との違いや、進路に対する思い、自分の知らない評価を知る事ができた。他大学との交流の機会ができた。
- SGDを通して“6年制教育について”“薬剤師の今後”また自分の将来について考える良い機会となったこと。また、他大学の生徒との交流の中で今まで聞いたことのなかった将来の展望や思いを知ることができて、良い刺激を受けた。
- 他大学、薬学生との交流を通し、人それぞれの価値観を知ることができ、将来の薬剤師の在り方に関して多面的に考えることができました。
- 様々な大学の学生と話せる機会を設けてくれたこと、薬学教育についてグループディスカッションできたこと。
- 他大学の人と交流できたこと。
- 薬学教育の重要性や将来像について SGD や情報交換会などを通してとても良く考える貴重な機会となったことです。また、さまざまな方とお話しできてとても楽しかったです。
- 大学内でここまで話し合う機会が少ないため、有意義なワークショップになった。
- 全国から1名ずつ選出されて、交流することで意識が高まりました。
- SGDを通して、全国の仲間と知り合うことが出来、仲良くなれたこと、他の人のユーモアあふれる多角的な視点の意見を知ることができたこと。

3. 今回のワークショップの問題点と思われることをお書きください。

- グループだけの交流がメインとなってしまった部分があるのでもう少し、他のグループと関わる機会があればよかったと思う。
- 集まった学生間での交流をもっと深められたらと思いました。
- あえて意図しているかもしれないがテーマがもう少し具体的であれば討論しやすかった。
- 6年制の学生だけでなく、4年制の学生がいても、おもしろいと思った。
- 71名いる中で、関われる人数が少なかったことです。セッションごとに異なるグループを作っても良いのではと思いました。
- 終了時刻変更の連絡が遅かった。2日目の朝食の記載がプログラムになかった。
- Ⅰグループ内では交流がしやすかったが、Ⅱ、Ⅲグループとも交流、ディスカッションをしてみたかった。
- 6年生になるまでの間にもこのような機会があってほしいと思う。
- 学生から質問する時間が足りない。特に2日目のパネルディスカッションは本会において最も参考になるパートであったため、このパートの時間は十分に確保していただきたかった。
- ディスカッションをもっと他の人とも行えたら良かった。自分の普段の思慮の浅さにより、議論を停滞させてしまうことがあり、反省している。

- タスクフォースの先生の意見で、話し合いがよりむずかしく、ややこしくなったこともあったように思いますが、大変サポートしていただき、感謝しています。
- 同じⅠ班のメンバーとは仲良くなれたが、他のグループの人とはほとんど話すことができなかったのが少し残念だった。
- Ⅰ、Ⅱ、Ⅲグループに分かれて SGD を行ったが、他のグループとも SGD をするプログラムにすると良いなと思いました。
- もっと話をする時間がほしい
- 考える時間が短いと感じた。
- わがままかもしれませんがもう少しずつ時間が欲しかったです。
- 時間を延ばしてほしいです。(特に最後の4方の話をもっと聞きたかったし、意見交換したかった。)
- 質疑応答の時間短い。他の班(自分でいうとⅡとⅢ)の状況が分からない。どんなディスカッションが行われたのかなど
- もう少し、時間に余裕があると嬉しかったです。
- A-Cは交流する期会も多かったが、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの間の交流が少なかったこと。
- 方向性がまとまりにくいと思いました。(都会と田舎)
- SGDのグループをずっと固定するのではなく、構成員を時々変えることで、もっと71人全員と顔見知れる機会が得られると思った。
- 時間がかかなり制限されている所(長すぎても良くないと思いますが...)
- 時間が全体的に短い。もっと多くの参加者をつのり、もっと多くの人たちの間で、テーマを共有することで、より良くなると考える。
- 他のチーム(Ⅰ、Ⅱ)の人との交流が少なかった
- 最後の先生方とディスカッションする時間が少なかった。
- 他の2チームとの交流(青チーム、緑チーム)が少なかったため、もう少し交流したかった。
- 仕方ないことだと思うが、大きく3チームに分かれているので他チームと交流したかったなと思う。
- Ⅰ、Ⅲの班と意見交換やSGDができなかったのが残念。もっと多くの学生とSGDを行ってみたいかった、全体的に時間か短いと感じた。
- 他のPグループでどのような発表が行われたのか知る機会があったらいいと思いました。
- 他の班の人とも交流したかったです。
- テーマの内容によっては、時間が短いと感じたものがあつた。
- 予めスライドのプリントを配布していただければ、多少お話の理解もより深まるのではいかと思いました。
- 少々時間に追われている感じがあつたので、もう少し日程にゆとりを持ってやった方がより有意義なものになると思います。
- 時間が短かったところ。
- SGDの時間がもう少し欲しいと感じた。
- もっと話合いたかった。今後のつながりを大切にしたい。
- 最後、皆の将来が少しちがう進路もあって論点がズレて話しづらかった。
- 討論したい、質問したい、と思ったり、他の人と交わりたいと思ったときに、時間が不十分だった。
- 全体的に時間がタイトなこと。(内容は満足しました。)
- せっかく各大学や厚労省などから来ていただいているので議論や発表へのfeedbackがほしかったです。学生の意見きくだけでは、十分有意義とは言えないと思います。

- 大きく分けたⅢグループ中でしか関わりをもちにくいこと。A、B、C まであったなら、少し入れかえなどを行ってもよかったと思う。
- 薬学教育を考え、よりよくすることは必要だと思うが、もっと自身の将来についてキャリアプランなどについても考えてみたかった。
- 限られた時間での話し合いで納得いくものが作れなかった。
- 毎回同じグループでの SGD だったが、毎回グループのメンバーが変われば、もっと多くの意見を聞けたと思う。
- 2日に分けている点。大学生はバカみたいに飲む人もいる。2日目眠い人もいて議論にならないことは予想できると思います。
- 常に、自由な発言、恥ずかしくないよ、どんな意見でもいいよという雰囲気をタスクフォースの人は出すべき。(最初だけでなく)
- 時間がないのは仕方ないが、他の P の発表、内容をリアルタイムで聞いてみたかった。
- I、II、Ⅲグループが分裂しているため、他のグループの人とお話する機会が少なかった。
- 報告書に関しての説明が不足していた。
- I、IIのグループの人と接する事がなかなかできず、話せない大学の人もいた。
- 話し合いが活発になっているところで時間が終わってしまうのがもったいなかった。もっとみんなの意見をきいてみたかった。
- 1泊2日では短いような気がする。
- せっかく多種の大学の人に来ていたので、SGD を毎回グループ替え(メンバーチェンジ)して行いたかった。
- SGD の時間をもう少しいただけると嬉しかったです。
- ディスカッションしたい内容が多くもう少し時間が欲しいと感じた。他のグループの発表も聞きたい。
- ハードでした。でも短いからこそその良さもありました。
- 先生達と学生の間での考え方の違い、言葉のとらえ方の違いがあるような気がした。世代をこえた議論の場(先生もまじえた SGD のような)もあると良いと思った。

4. その他のご意見(ご自由に)。

- このような機会を与えて頂き、とてもよかったと思います。先生方もご指導、ご準備等、本当にありがとうございました。
- 貴重な経験ありがとうございました。今回の学びを今後の仕事にも活かしたいと思います。
- 薬学教育は大学での教育6年間のみではないと感じることができた。
- 1日のスケジュール表の中に朝食の時間等の表記もあると、助かるなと思いました。
- 医療機関における薬剤師の色がまだ少し濃い印象。私にとって「薬剤師」の定義は医療機関やアカデミア、企業にとどまらないものとしてとらえているため、そういった部分を取り去ってもっとオープンな議論ができるようにすべきであると考えている。
- 参加して良かったと思いました。ありがとうございました。
- まわりの人のレベルがとても高く、自分の大学の中だけではなかなかできないような意義のあるディスカッションができて楽しかった。
- 貴重な体験ができました。
- ワールドカフェを SGD に置き換えても良いかも知れないです。(メンバーのアイスブレイキングを短く)

- 薬学部のカリキュラムに解ぼうの講義が欲しい。(人を診るという意識の向上のため) なぜないのでしょうか。
- 身がひきしまる思いです。再度研賛を続けていきます。このようなワークショップに参加させていただけて、光栄に思います。ありがとうございました。
- 貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。沢山の仲間から刺激を受け、今後頑張っていこうと思いました。
- 今回の出会いを将来につなげたい。つづけたいと思った。他大学との交流機会は少ないので、非常に貴重。このワークショップをつづけてほしい。
- 年一回といわず、もっと開催していただきたいです。
- ぜひ、WS を続けてほしい。かけがえのない様々なバックグラウンドをもった友達、仲間ができたことが一番の収穫。
- 参加させていただき、とても良い経験ができました。感謝しております。
- 参加前との自分の意識の違いに驚いている。参加してよかったと心から思えた。本当にありがとうございました。
- コアカリキュラムがかわったとしても、PDCA サイクルを行うためこのようなワークショップは続けるべきだと思う。
- 薬剤師についてだけでなく、全国の特長や大学の違い等も聞くことができ、とても楽しかったです。ありがとうございました。
- 有意義な時間が過せました！
- スライドの資料を発表後ではなく、発表前に配ってほしい。全国の薬学生と交流することで自分の地域・大学の問題点などが見つかるように思うので、もっと交流する機会があってもいいのかなと思う。
- この度は、2日間ありがとうございました。
- 大変貴重な経験をすることができました。
- これから、能動的にやっていき、結果にコミットしていきたい。次回も参加したいです。運営ありがとうございました。
- 貴重な経験をさせていただきありがとうございました。
- 大阪で行われた高度先導的薬剤師を考える集まりにも参加させていただきました。そのようなプログラム、またその他のプログラムとのつながりがあれば良いと思います。
- とても楽しい2日間でした。新カリキュラムに対応する形で継続していただけたらと思います。
- 2日間ありがとうございました。楽しみながら、刺激を受けながら、充実した時間を過ごすことができました。
- これから大学に帰って少しでも他の学生に同じ意識をもってもらいたい、伝わるか不安。
- 2日間とても楽しかったです。とても有意義な時間で薬学教育について討論できたのが良かったです。
- 第二部セッションⅡの内容が良かったと思います。
- とても充実した内容でした。ありがとうございました。実務実習内容で、受入れ施設の条件をもっと厳しくしてほしいです。
- このようなワークショップに参加出来たことを大変嬉しく思います。全国の学生、先生方と繋がりができるということは、将来とても役に立つ経験でした。本当にありがとうございました。
- 2日間、誠にありがとうございました。

- 2 日目は就職別に未来を考えても良かったのではないかと思います。違う職につくからこそ新たな発想、アイデアもいただきましたが、病院就職グループなどに分けて考えてもおもしろいだろうなと思います。貴重な 1 泊 2 日でした。ありがとうございました。
- 二日間ありがとうございました。

「薬剤師として求められる基本的な資質」 に関するアンケート

薬剤師として求められる基本的な資質に関するアンケート調査ご協力のお願い》

質問1 6年間の薬学教育を通じて、以下の1～10に示す「薬剤師としての基本的な資質」が、現時点で身についた(成長した)と思いますか？ 自己評価欄の該当すると思われる数字に○をつけてください。

薬剤師として求められる基本的な資質

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。6年卒業時に必要とされている資質は以下の通りである。

あなたの自己評価は？

	ほとんど身についていない	あまり身についていない	部分的に身についた	おおむね身についた	十分に身についた
1. 薬剤師としての心構え 医療の担い手として、豊かな人間性と、生命の尊厳についての深い認識をもち、薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を有する。	1	2	3	4	5
2. 患者・生活者本位の視点 患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。	1	2	3	4	5
3. コミュニケーション能力 患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。	1	2	3	4	5
4. チーム医療への参画 医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。	1	2	3	4	5
5. 基礎的な科学力 生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。	1	2	3	4	5
6. 薬物療法における実践的能力 薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。	1	2	3	4	5
7. 地域の保健・医療における実践的能力 地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。	1	2	3	4	5
8. 研究能力 薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。	1	2	3	4	5
9. 自己研鑽 薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。	1	2	3	4	5
10. 教育能力 次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。	1	2	3	4	5

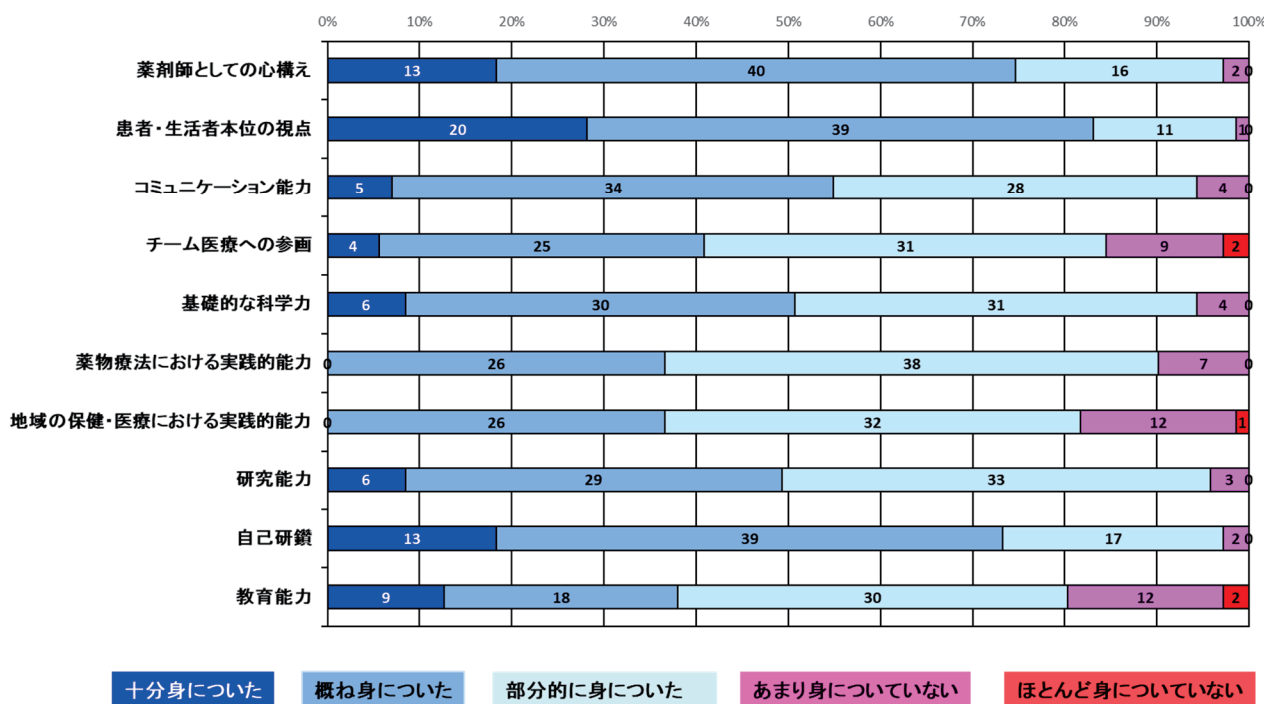
質問 2 上記の「薬剤師として求められる基本的な資質（案）」に対するご意見やご感想がありましたら、自由にご記入ください。

なお、ここで得られた情報は統計資料としてのみ用い、個人が特定できるような取扱いはいたしません。

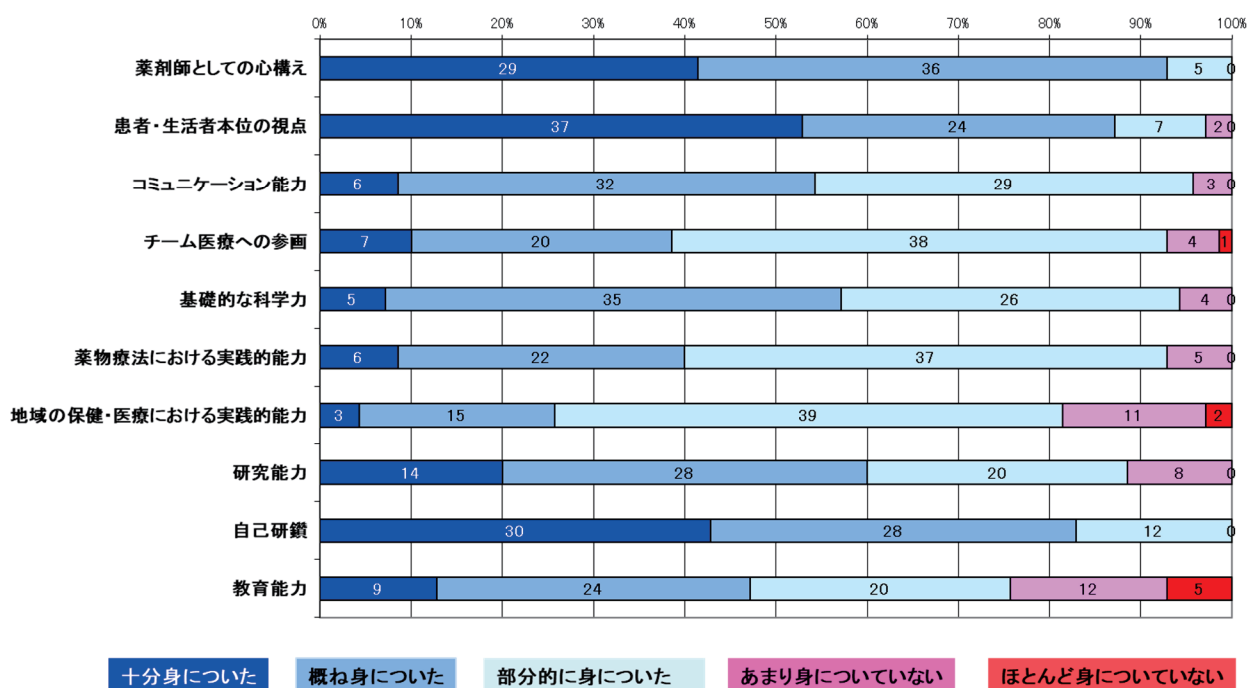
グループ名

氏名

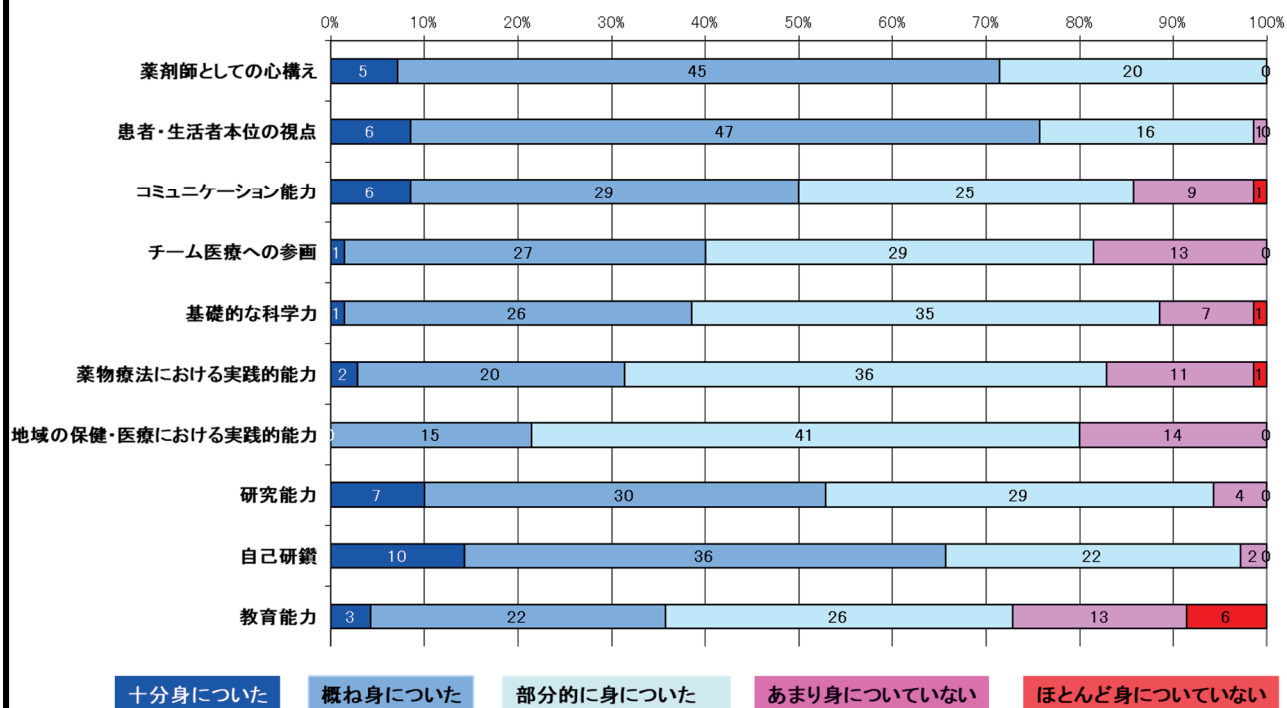
第8回全国学生ワークショップ参加者のアンケート結果



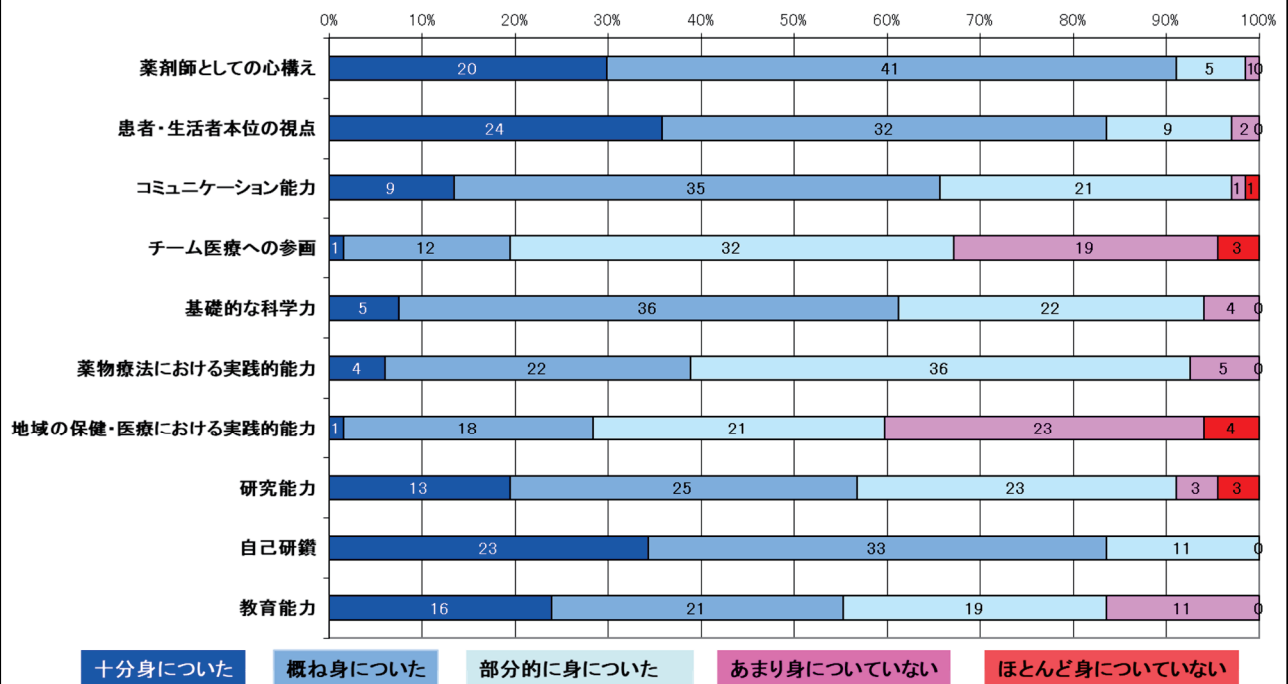
第7回全国学生ワークショップ参加者のアンケート結果



第6回全国学生ワークショップ参加者のアンケート結果



第2回全国学生ワークショップ参加者のアンケート結果



第8回全国学生ワークショップ実行委員

青柳 裕	(金城学院大学)
有田 悦子	(北里大学)
井上 裕文	(福山大学)
入江 徹美	(熊本大学)
大柳 賀津夫	(北陸大学)
賀川 義之	(静岡県立大学)
亀井 美和子	(日本大学)
川崎 郁勇	(武庫川女子大学)
河野 武幸	(摂南大学)
塩田 澄子	(就実大学)
鈴木 匡	(名古屋市立大学)
高橋 寛	(岩手医科大学)
◎ 田村 豊	(福山大学)
徳山 尚吾	(神戸学院大学)
橋詰 勉	(京都薬科大学)
長谷川 洋一	(名城大学)

発行 2019 年 2 月

公益社団法人 日本薬学会

日本薬学会第 8 回全国学生ワークショップ実行委員会